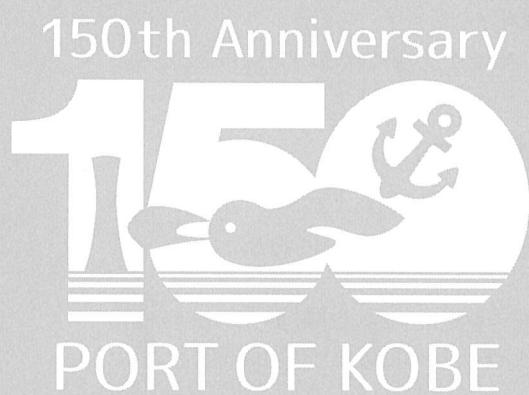




神戸開港 150年のあゆみ

(神戸港関連歴史略年表)



神戸開港150年記念事業実行委員会
(一社)神戸港振興協会

①大輪田泊から高田屋嘉兵衛の択捉航路開設まで（740年頃～1799年）

740年頃	（ユリウス暦） 奈良朝	行基により五泊の制度が設けられた。山陽西海南海三道の舟船海行の程は、ムロウ泊（室津）からカラクニ泊（福泊）、ウオズミ泊（魚住泊）、オオワダ泊（大輪田泊）、河尻までをそれぞれ1日の行程とし、船は各泊に停泊して風潮を待って航海する事とした。
1174年	承安4年2月 承安4年10月15日	湊川によって大輪田泊の水深が浅くなるばかりだったので、大型船が安全に停泊できる港として和田岬の北側を選んで「兵庫の津」と名付けた。 平清盛が福原大輪田泊に「経ヶ島」を築造。人柱を入れずに一切経を刻んだ岩を海中に沈めて、難工事に尻込みする人夫を励ました事から「経ヶ島」と名付けられた。
1180年	治承4年6月2日	平清盛による福原遷都。11月26日に安徳天皇らとともに京都へ戻った。僅か5月余りの遷都となった。
1401年	応永8年5月	足利義満自ら見送る中、第一次遣明船が兵庫の津から出帆。兵庫が対明貿易の拠点となる。
1619年	元和5年	堺の船問屋が江戸廻船（菱垣廻船）を始める。大坂-兵庫-江戸航路の開設。
1638年	寛永15年5月2日	商船に限り500石積以上の大船建造を許可。
1691年	元禄4年2月30日	ドイツ人ケンペルがオランダ商館長と共に將軍綱吉に拝謁する際、兵庫港に来航して上陸し港を視察した。
1776年	安永5年4月1日	オランダ商館長がツンベルグ（日本植物図誌の著者）を従え將軍家治に拝謁する際、兵庫港に来航して上陸し港を視察した。
1799年	寛政11年	高田屋嘉兵衛が択捉航路を開設。兵庫港が北海道物産の交易基地となる。

②ペリーの来航から神戸開港までの日本（1853年～1867年）

1853年		
7月8日	嘉永6年6月3日	ペリー、浦賀に米（アメリカ）軍艦4隻を率いて来航、開国を迫る。
1854年		
3月31日	嘉永7年3月3日	日米和親条約を締結。下田・箱館の開港を約束する。以降、英・露・蘭と締結。
11月8日	嘉永7年9月18日	プチャーチン、ロシア軍艦「ディアナ」号で大坂湾に来航し和田岬沖に投錨。
1855年		
5月13日	安政2年3月27日	二ツ茶屋村の呉服商、網屋吉兵衛（72才）が「船たて場」（船舶の修理場）の上棟式を行い、3年がかりで完成。（現在の京橋東側山手に2隻の船を揚げる斜路を築造）
1858年		
7月29日	安政5年6月19日	江戸湾アメリカ艦上で、日米修好通商条約を勅許のないまま調印し、1863年1月1日に兵庫開港と決まる。以降、蘭（オランダ）・露（ロシア）・英（イギリス）・仏（フランス）・葡（ポルトガル）・普（プロシア）・清（中国）等と修好通商条約を締結。
1861年		
6月14日	文久元年5月7日	英公使オールコック一行が4隻の軍艦を率いて兵庫へ入港し、翌8日に兵庫を視察。
1862年		
6月6日	文久2年5月9日	幕府の遣欧使節竹内保徳が英国外相ラッセルとの間で、ロンドン覚書に調印、江戸・大坂の開市、兵庫・新潟の開港の5年間延期と貿易制限の撤廃を約束。
1863年		
4月	文久3年2月	フランスの軍艦2隻が兵庫へ来航し、人々を驚かせた。幕府は、今津・西宮・湊川尻・和田岬に砲台の築造を決定。御影村の廻船御用達、嘉納治郎作希芝がこれを請け負い着工。
6月8日	文久3年4月23日	第14代將軍徳川家茂は、勝海舟の指揮する蒸気船「順動丸」に乗船し大坂湾・兵庫付近の海域を巡視。その際、和田岬へ上陸して御台場を視察、再び乗船して、生田鼻で上陸後、小野浜で網屋吉兵衛を引見し、船たて場築造工事について話を聞く。

1864年		
6月24日	元治元年 2月21日	勝海舟の建言により網屋吉兵衛の船たで場に神戸海軍操練所が開設。「観光丸」「黒龍丸」の2隻の練習艦を配属。
1865年		
4月7日	元治2年 3月12日	神戸海軍操練所が幕府に反対する者の入所も認めた事が問題になり、1年足らずで閉鎖。
5月1日	元治2年 4月7日	元治から慶応に改元。
11月4日	慶応元年 9月16日	英・米・仏・蘭4国代表が連合艦隊（イギリス5隻、フランス3隻、オランダ1隻の計9隻）を率いて兵庫沖に現れ、兵庫の即時開港と条約の勅許、輸入税率の改訂を申し入れる。老中 阿部正外は、兵庫沖で各国代表と条約勅許・兵庫開港について会談。（兵庫沖会談）
1867年		
1月10日	慶応2年12月5日	徳川慶喜が第15代将軍に就任。
1月30日	慶応2年12月25日	孝明天皇ご逝去。
2月13日	慶応3年 1月9日	睦仁親王践祚。（明治天皇即位）
5月16日	慶応3年 4月13日	幕府は英・米・仏の三国に対し「兵庫港并大坂に於て外国人居留地を定むる取極」として十二カ条からなる規定書を送り、兵庫の居留地は「神戸村の生田川以西、鯉川以東」とした。
6月26日	慶応3年 5月24日	兵庫の開港について、勅許が決定。
7月6日	慶応3年 6月5日	幕府は大坂の商人鴻池屋山中善右衛門、加島屋長田作兵衛、加島屋広岡久右衛門を頭取、米屋殿村平右衛門ほか5名を肝煎、鴻池屋中原庄兵衛ほか12名を世話役として商社を結成させ、兵庫開港資金の約百万両の拠出と貿易の取締りを図ったが半年後の慶応4年1月に解散。
7月7日	慶応3年 6月6日	幕府は慶応3年12月7日より兵庫開港と江戸・大坂開市を布告。
9月16日	慶応3年 8月19日	幕府は近畿諸国に対して、兵庫開港に伴う金融のため大坂に創設される商社に金札を発行させるのでこれを通用させよと通達したが、信用力がなくわずか1万両程の発行に終わった。
9月	慶応3年 8月	幕府は神戸村庄屋生島四郎太夫の請け負いで、居留地建設とともに兵庫運上所（税関）の建設に着手。また、運上所前に外国貨物の陸揚及び船積のための波止場築造にも着手。
10月30日	慶応3年10月4日	幕府は兵庫に貿易商社設立の場合、他の3開港地（長崎・下田・箱館）と同様に営業の自由を布告。
11月9日	慶応3年10月14日	第15代将軍徳川慶喜は、大政奉還を上奏。（15日勅許）
12月頃	慶応3年11～12月	兵庫津や近隣の村で「ええじゃないか」が流行。
12月27日	慶応3年12月2日頃	英国、米国艦隊が兵庫港沖に停泊し、度々礼砲を轟かせて住民の喝采を浴びた。
12月30日	慶応3年12月5日	横浜港を出航したオランダ人テキストルの持ち船「HAYAMARO」（534 G/T、船長は英国人カーンズ）が兵庫沖に投錨。翌12月6日（大晦日）に乗客20名が神戸へ上陸。

③神戸開港から第1期修築工事が始まるまで（1868年～1907年）

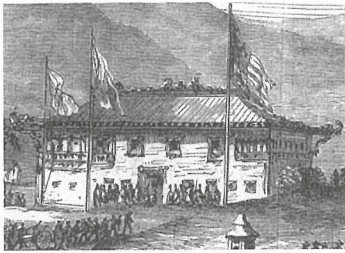


開港当日の神戸港＝英国測量艦「シルビア」号の艦長（海軍中尉代理）F.J.バルマーが描いた



開港直後の神戸港＝英国測量艦「シルビア」号の艦長（海軍中尉代理）F.J.バルマーが描いた

1868年		
1月1日	慶応3年12月7日	「兵庫」の名のもとに開港。神戸の沖合には数日前からハリー・ケッペル提督が率いる旗艦「ロドニー」（2,770排水トン）、「オーシャン」（4,047排水トン）、「バジリスク」



運上所(初代)

(1,031排水トン)、「リナルド」(951排水トン)、「ラットラー」(952排水トン)、「コーモラント」(695排水トン)、「シルビア」(695排水トン)、「サーベント」(695排水トン)、「アドヴェンチャー」(1,794排水トン)、「サラミス」(835排水トン)、「マニラ」(295排水トン)、「スナップ」(230排水トン)などイギリス艦隊12隻が香港等から兵庫の開港を祝うために集結していた。また、その西側にはベル提督の率いる旗艦「ハートフォード」(1,900排水トン)と「シェナンドア」(975排水トン)、「アイロクオイス」(不詳)、「オネイダ」(不詳)、「アルースツーク」(不詳)の5隻(当初4隻)が錨泊。フランス艦は「ラ・プレース」(900排水トン)。午前8時に万国旗で満船飾を施されたすべての外国艦船のメインマストに日の丸の旗が掲げられた。開港式典は、完成したばかりの和洋折衷で窓はガラス張りの兵庫運上所(現在の阪神高速道路京橋ランプ北側付近)で行われた。

フランス公使レオン・ロッシュ、イギリス公使ハリー・パークス、アメリカ弁理公使アルビー・フォン・ブルケンボルグ、プロシア(北ドイツ)代理公使M.フォン・グラント、オランダ公使代理で総領事のド・グラク・ファン・ボルスブロックのほか、旧幕臣の兵庫奉行柴田日向守剛中、語学の達者な与力の森山多吉郎の2名が日本代表として出席した。

各国領事館には国旗が掲揚され、正午に開港を記念して神戸沖に集まった艦船から21発の祝砲(王礼砲)が4回にわたって放たれた。

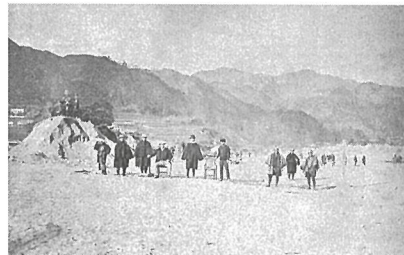
1868年

1月3日	慶応3年12月9日	王政復古。(幕府廃絶、新政府誕生)1月8日午後に汽船「大坂丸」を1日500ドルで雇い入れて、柴田兵庫奉行が部下一同とともに江戸へ逃れたために、兵庫運上所はわずか1か月で事実上の閉鎖となる。
1月4日	慶応3年12月20日	神戸の居留地で週刊英字新聞「THE HIOGO AND OSAKA HERALD」が横浜のジャパン・ヘラルドの社主である英国人A.T.ワトキンスにより創刊される。
2月4日	慶応4年1月11日	西宮札場の辻警備に向かう備前岡山藩兵が神戸(三宮神社付近)で外国兵と衝突。(神戸事件)外国軍艦は戦備を整え、港内の日本船を抑留し、居留地でも外国公使団が出入口を封鎖して一時占領状態となる。
2月12日	慶応4年1月19日	兵庫事務局は、運上所御用掛4名(従来の名主、年寄ら)を任命、運上所を仮再開。
2月15日	慶応4年1月22日	兵庫鎮台を設置。東久世通禧(ひがしくぜ・みちとみ)が参与・外国事務総督となり兵庫鎮台を兼ねた。
2月22日	慶応4年1月29日	兵庫港からの定期船1番船となる米国パシフィック・メイル・ライン(代理店=スミス・ベーカー商会)の木造外輪蒸気船「コスタ・リカ」(1,917 G/T)が初入港。
2月24日	慶応4年2月2日	兵庫鎮台は兵庫裁判所と改称し、東久世通禧が総督に就任。
2月27日	慶応4年2月5日	新政府による「神戸運上所」(東運上所)開設。同時に商家を改造した西運上所(中突堤基部)も開設。
3月30日	慶応4年3月7日	外国事務局判事の伊藤俊輔(博文)は、雑居地に関する細目規定を各国領事に通知。雑居地は東は生田川から西は宇治川までの山辺から海岸までの範囲。
4月30日	慶応4年4月8日	海岸通3丁目に1か所、仮波止場(第2波止場)を建設し外国貨物の陸揚および船積のための使用を認める通報を各国領事へ送付。
4~5月	慶応4年4月頃	神戸~大坂間に小型蒸気船が就航し貨客の輸送を開始。「STEAM BOAT」が訛って「ストンボ」と呼ばれた。午前8時に神戸を出港し、午後6時に再び神戸へ帰港した。
5月23日	慶応4年閏4月2日	鯉川尻に長さ18.2m、幅10.9mの波止場(後のメリケン波止場)を設け「第3波止場」とし、宇治川尻東側にも波止場を築造し「第4波止場」と定め、この日から外国貨物の揚卸場所としての使用を許可した。一方、当初の運上所前波止場を「第1波止場」とし、海岸通の仮波止場を「第2波止場」として、この4か所で貿易を許可した。神戸運上所は、これら波止場規制を制定し各国領事を通じて関係者に通報した。
7月12日	慶応4年5月23日	兵庫裁判所を廃して兵庫県を設置。伊藤俊輔(博文/27才)が初代兵庫県知事に就任。これにより神戸運上所は、県庁の外務掛に属する一部局となる。
8月7日	慶応4年6月19日	「大坂兵庫外国人居留地約定書」が成立。
8月14日	慶応4年6月26日	兵庫居留地造成工事が完了。

1868年		
9月10日	慶応4年7月24日	東運上所において兵庫居留地第1回永代借地権(36区画/14,379.18坪)の競売開始。イギリス12、アメリカ10、オランダ7、フランス4、ドイツ3区画。平均価格は1坪3円50銭。
10月23日	慶応4年9月8日 (明治元年9月8日)	元号を慶応から明治に改元。一世一元の制を定める。
11月21日	明治元年10月8日	兵庫と神戸をつなぐ街道を遮っていた(旧)湊川に初めて橋が架かり東西の往来が盛んになる。
12月14日	明治元年11月1日 明治元年	神戸村、二ツ茶屋村、走水村の3村を合併し神戸町とする。 この年、神戸町の人口は推定3,619人で、兵庫と合わせて23,712人。



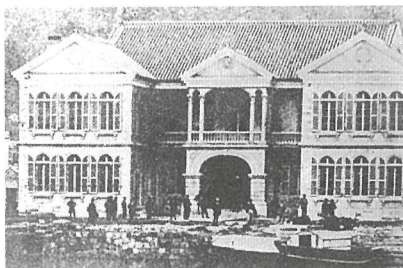
和田岬燈台



生田川付替工事

1869年	明治2年	この年、神戸花隈に森川写真館が開業。また、外国人を常得意に元町6丁目辺りに牛なべ屋「関門月下亭」(スキ1人前=金2銭也)が開店。北長狭通6丁目辺りには西洋料理屋「外国亭」も開店。
6月1日	明治2年4月21日	兵庫居留地第2回永代借地権(25区画/7,146.91坪)の競売開始。イギリス13、ドイツ7、フランス2、オランダ2、居留地行事局1区画。
1870年		
2月頃	明治3年1月頃	政府監督下に回漕会社が設立され、東京・横浜～大坂・神戸間定期航路(月/3便)開設。
5月16日	明治3年4月16日	兵庫居留地第3回永代借地権(60区画/17,049.9坪)競売開始。イギリス36、ドイツ11、オランダ6、フランス5、イタリア1、アメリカ1区画。
11月2日	明治3年10月9日	土佐藩大坂御蔵屋敷留守居役岩崎弥太郎、土佐開成商社創立。明治3年10月19日、九十九商会に改称。東京～大坂～高知間の航路開設。また、同月神戸の海岸通6丁目に九十九商会を設け、神戸～高知間の航路開設。
12月21日	明治3年閏10月29日	神戸の東運上所の仮電信所と大坂運上所にイギリス人技師ギルバートの指導で民部省による電信(テリグラフ)が開設。「汽車や蒸気じゃ便りが遅い、かけて置きたやテリグラフ」と歌われた。
1871年		
4月7日	明治4年2月18日	兵庫県はイギリス人ジョン・マーシャル(37才)を初代兵庫港長に任命。マーシャルは港内の実測を行った。
4月29日	明治4年3月10日	居留地の要請で生田川付替工事着工。(明治4年6月9日、新生田川竣工)
6月14日	明治4年4月27日	和田岬にイギリス人技師アール・ヘンリー・プラントンの技術指導で民部省が洋式燈台を建設し、この日から明治5年8月29日まで仮点燈。(明治3年9月19日起工)
10月12日	明治4年8月28日 明治4年	各開港、開市場の税務は、外務省から大蔵省へ移管。 この年、神戸元町の松花堂松野庄兵衛が「瓦煎餅」を売出し神戸名物となる。
1872年		
6月18日	明治5年5月13日	神戸運上所は正式に大蔵省租税寮の直轄となり、兵庫県から事務引継ぎを受ける。
6月頃	明治5年5月	兵庫県令神田孝平のすすめで西日本初の日刊紙「神戸港新聞」創刊。(明治9年11月廃刊)
10月1日	明治5年8月29日 明治5年	和田岬燈台が本点燈。同日、仮点燈廃止。 この年、イギリス測量艦「シルビア」号の艦長セント・ジョン中佐、小野浜で天測。神戸の原点を決め、これを基にして三角測量を展開し、同艦製図師のR. F. ホスキンの「神戸兵庫錨地」をまとめた。

1873年	1月1日	明治5年12月3日 (明治6年1月1日) 明治6年1月4日 明治6年2月7日	太陽暦(グレゴリオ暦)を採用、明治5年12月3日を明治6年1月1日とする。(以後西暦と和暦の月日は一致) 神戸運上所を「神戸税関」に改称。 兵庫居留地は第4回永代借地権(5区画／1,474.86坪)の競売でイギリス4、ドイツ1区画の分譲を完了。その結果、126区、約13万㎡が外国人に売り渡された。平均価格は1坪5円50銭。イギリス人46人、64区画、ドイツ人19人、23区画、オランダ人12人、15区画、フランス人11人、11区画、アメリカ人10人、11区画、イタリア人1人、1区画、居留地行事局1区画で合計123の商館が建てられた。
1874年	明治6年10月19日	明治7年5月11日	ジョン・マーシャル港長「兵庫開港規則草案」17則を作成。神田県令に提出。 神戸～大阪間に鉄道が完成(3月開通)し仮営業開始。所要時間は66分で1日8往復。車両はイギリス製で運転手もイギリス人。
	明治7年7月11日		兵庫区長神田兵右衛門(33才)が発起し、県令神田孝平の積極的な協力により、新川運河の開削工事に着手。(明治8年5月1日竣工)新川を船舶の避難所とした。
	明治7年		この年、政府の許可を得て外国人経営のガス会社「兵庫瓦斯(株)」が居留地にガス灯を設置し点灯を開始。(明治39年9月、神戸瓦斯に合併)
1875年	明治8年8月19日		各国公使と外務卿の調印で旧生田川尻西側に9,467坪の内外人遊園を設置。(現在の三宮東遊園地=神戸市内で最古の遊園地)
1876年	明治9年6月27日		鉄道寮が神戸停車場の臨港鉄道蟹川船渠西側に鉄道栈橋(長さ約75間×幅6間5呎／鉄脚)を架設、千斤力(せんくらん)の起重機を設置。明治9年7月1日供用開始、昭和42年撤去。
1877年	明治9年		この年、神戸港に臨港鉄道敷設。
	明治10年2月15日		西南戦争勃発。(明治10年9月24日終戦)
	明治10年		この年、神戸港貿易額は輸出4,657,000円(全国比20%)、輸入4,258,000円。(全国比16%)神戸の人口は51,544人。
1878年	明治11年2月		第1波止場東北隅に、2.5トン吊りの軌道付鉄製起重機を設置。(明治25年11月に20トン吊り手動クレーンに取替)
	明治11年5月		川崎正蔵、東京で川崎築地造船所創業。(川崎正蔵個人経営)
	明治11年12月12日		イギリス人キルビィが旧生田川尻左岸小野浜の三井組敷地を借り「小野浜造船所」(33,000㎡)を設立。我が国初の鉄製汽船を建造。
	明治11年		この年、神戸の外国人総数は1,016人。イギリス230人、アメリカ53人、ドイツ50人、オランダ26人、フランス11人、ポルトガル10人、清国619人、その他17人。 この年、マッチの輸出始まる。
1879年	明治12年1月8日		神戸町と兵庫・坂本村が合併し神戸区となる。
1881年	明治14年3月		川崎正蔵(43才)、湊川右岸尻の兵庫東出町に「川崎兵庫造船所」を開設。資本金10万円。(川崎正蔵個人経営)
1882年	明治15年6月		兵庫の北風正造らの発起で「神戸船橋会社」設立。西運上所前の神戸貿易会社の栈橋の西隣に長さ163.6mの有料船橋の架設開始。(大型蒸気船4隻、または小型船6隻が同時着岸可能)



神戸運上所(2代目)



明治中期の居留地海岸通

1884年	明治17年5月1日	大阪商船会社開業。(資本金120万円)神戸と兵庫に代理店設置。明治19年8月1日、海岸通3丁目17番地に神戸支店開設。
-------	-----------	---

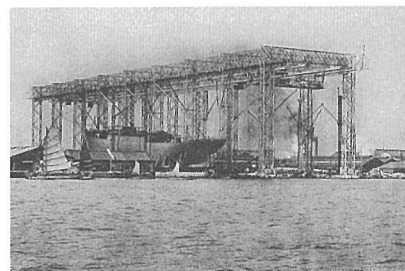
1884年	明治17年11月15日	外国栈橋（鉄脚栈橋）竣工、鉄道栈橋で水深マイナス6.7m、全長496.6呎、幅42呎。3千トン級の大型外航船が接岸でき、神戸栈橋合本会社による民間事業で行われた。
1885年	明治18年 9月29日	郵便汽船三菱会社と共同運輸会社が合併し、日本郵船(株)設立。（資本金1,100万円）両社の神戸支社と神戸支店を統合し、海岸通6丁目に同社神戸支店を開設、明治18年10月1日開業。
1886年	明治19年 4月28日	川崎正蔵、東川崎町の農商務省工務局所管「兵庫造船所」を借受け、同年5月19日に東出町の「川崎兵庫造船所」を移転合併し「川崎造船所」に改称。5月20日に官営造船所の引継船「吉野川丸」（大阪商船の貨客船）が進水。
1887年	明治20年11月16日	海軍省主計局小野浜造船所で日本初の鋼鉄軍艦初代「大和」（1,480排水トン、全長61.4m、幅10.7m）が竣工。
	明治20年	この年、神戸の人口は102,841人。神戸の貿易額は輸出1,270万円（全国比24%）、輸入1,380万円（全国比31%）。入出港外航船隻数の合計1,002隻（1,386,000トン）、内航船は合計5,334隻。
1888年	明治21年 9月10日	神戸の街に初めて電燈がつく。（湊川神社及び相生橋の街灯）11月3日には神戸電燈会社が営業開始、神戸の街で一般送電が始まった。（東京に次いで全国2番目）
1889年	明治22年 3月	日本郵船(株)の神戸～ウラジオストック及び神戸～天津航路開設。
	明治22年 4月1日	神戸市制施行。神戸区に葦合村と荒田村を加えて神戸市となる。神戸市の人口134,704人。
	明治22年 5月21日	初代神戸市長に神戸区長鳴瀧幸恭（なるたき・ゆききよ）が就任。
	明治22年 7月1日	神戸～新橋間に鉄道（東海道線）が開通。1日1往復で片道約20時間、運賃は下等が3円76銭。
	明治22年	この年、神戸で自転車（鉄輪）が流行、貸自転車（1時間＝5銭）が増えた。
1890年	明治23年 4月18日	明治天皇をお迎えして日本で初めての第1回大観艦式を神戸港沖で開催。艦船19隻が参加。
1892年	明治25年 9月14日	港域拡張が認可（10月1日施行）。兵庫港と神戸港を一体化、兵庫港にも外国航行船の入港が可能になる。また、港界の決定により、すべての外国の入港船から入港料を徴収できるようになった。港域は「神戸港船舶碇泊所の区域は旧生田川口より正南に向かい、和田岬の尖角より北東に向かい直線を画しその両線交叉以北とす」。
1893年	明治26年 3月25日	逓信省により、神戸（神戸電話局）と大阪間で電話事業開始。
	明治26年 6月2日	大阪商船会社が朝鮮沿岸航路を開設。
	明治26年 11月7日	日本郵船(株)が日本で初めて神戸～ボンベイ間遠洋定期航路開設。「廣島丸」（2,453 G/T）が就航。
	明治26年	この年、神戸港貿易額は輸出2,497万円（全国比28%）、輸入4,129万円（全国比47%）で輸入は横浜港を抜き全国1位。輸出は横浜港に次いで2位。入出港外航船隻数の合計は1,793隻（2,885,000トン）、内航船は合計12,956隻。
1894年	明治27年 7月16日	日英通商航海条約を調印。（領事裁判権の廃止）以降、米・露・清・仏国等と調印。
	明治27年 7月25日	日清戦争勃発。（明治27年8月1日宣戦布告、明治28年4月17日に日清講和条約調印）
1896年	明治29年 3月15日	日本郵船(株)が欧州定期航路開設。第1船は「土佐丸」（5,402 G/T）。8月1日に北米定期航路、10月3日には豪州定期航路を相次いで開設。
	明治29年10月1日	(株)川崎造船所設立総会を開催。10月15日創立。
	明治29年10月25日	日本毛織(株)設立。また、同月鐘淵紡績は兵庫工場を開設。
	明治29年10月	兵庫県はメリケン波止場以西、国産波止場間の岸壁・物揚場拡張工事を実施、メリケン波止場改修にも着手。（明治29年10月～明治31年4月）
	明治29年11月25日	日本で初めて映画（のぞき眼鏡式キネトスコープ）を神戸神港倶楽部で公開興行。
	明治29年12月1日	宇治野山に兵庫県立神戸測候所創設。（後の神戸海洋気象台）
1897年	明治30年	この年、神戸の人口は193,001人。神戸港輸出貨物量は536,852トン、輸入1,102,716トン、価額ベースでは輸出額51,408,000円、輸入額110,742,000円。
1898年	明治31年 5月7日	神戸開港30年記念式典開催。
	明治31年 5月	兵庫運河竣工。（明治29年1月30日起工式）
	明治31年 7月7日	開港港則公布。横浜、神戸、新潟、大阪、長崎、函館の6港の港界が定められる。（11月1日施行）

1898年	明治31年 7月21日 明治31年10月10日	通信省神戸港務局が設置される。(花隈城趾) 通信省神戸港務局は、告示第1号をもって「神戸港規程」を定め、11月1日より実施。 これにより、兵庫港も外国航路船が停泊できる水域となる。
1899年	明治31年10月 明治32年 7月17日	神戸港築港調査完了。(神戸港築港計画「沖野案」成る) 居留地を神戸市に編入。居留地授受式が外国側代表と政府代表との間で行われる。この年、神戸に居住する外国人は2,636人。
1900年	明治33年 1月 明治33年 3月24日 明治33年 4月30日 明治33年 5月30日	荻藻島拡張工事竣工。 神戸市上水道の通水式挙行。(明治33年10月全工程完成) 明治天皇をお迎えして神戸港沖で第2回大演習観艦式開催。艦船19隻参加。(神戸では10年ぶり2度目) 港域拡張。(6月1日施行)「脇ノ浜の東角(市界)より正南に引きたる一線と、和田岬より北東に引きたる他の一線との二線を境界となしたる面積内に含まれる」となり、港域が東の脇ノ浜まで拡張。
1901年	明治34年 8月	湊川付替工事竣工。旧湊川の埋立工事は明治38年11月竣工。
1902年	明治35年 4月 1日	通信省神戸港務局が廃止(明治35年3月27日)となり、兵庫県港務部設置。
1903年	明治36年 3月 2日 明治36年 4月10日 明治36年 5月24日 明治36年12月 2日	兵庫県告示第104号(明治36年2月26日)で、兵庫県港務部構内(現／花隈公園)にタイム・ボール(報時球)施行。港内の船舶に正確な時間を知らせるために設置したもので日曜日や祝祭日を除く毎日正午の5分前に白色の檣(マスト)に付けられた赤色の球が引き揚げられ、正午に合わせて降下させた。港内に停泊中の船は球が降下する瞬間に船内の時計を正午に合わせた。 明治天皇をお迎えして神戸港沖で第3回大演習観艦式開催。艦船69隻参加。神戸市はこれを記念して錨形の松の植樹を行う。 イギリス人アーサー・ヘスセス・グルームが日本初のゴルフ場「神戸ゴルフ倶楽部」を六甲山に創設、開場。 神戸の(株)川崎造船所で東京高等商船学校の大型練習帆船「大成丸」(4檣バーク型、2,287 G/T)進水。
1904年	明治37年 2月 9日	日露戦争勃発。(2月10日ロシアに宣戦布告、明治38年9月5日に日露講和条約調印)
1905年	明治38年 7月20日	神戸三菱造船所創設。8月8日創業。7,000トン浮ドックの開渠式挙行。

④第1期修築工事着工から神戸市港湾局の誕生まで(1907年～1950年)



皇民殖民合資会社(水野龍)による
南米ブラジル移住第1船となった「笠戸丸」
(6,209 G/T)



川崎造船所のガントリークレーン

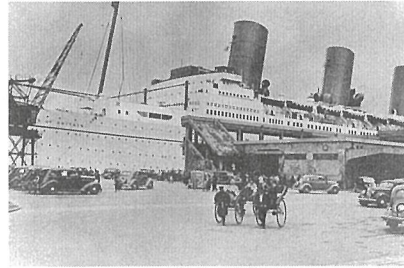
1907年	明治40年 9月16日 明治40年10月23日 明治40年	神戸港第1期修築工事起工式を小野浜埋立地で挙行。(第1～第4突堤西半面と上屋18棟、防波堤1,149m、鉄道20,378mなどの建設で大正11年5月16日竣工) 内務省は神戸港を第1種重要港湾に指定。 この年、神戸の人口363,593人。神戸港輸出貨物量739,191トン輸入1,670,384トン、価額ベースでは輸出額106,668,000円、輸入額223,438,000円。外国航路入港船は2,712隻、5,497,877総トン。
1908年	明治41年 4月28日	皇国殖民合資会社(水野龍)は南米ブラジル向け移民を輸送するため、東洋汽船(株)が運航委託された「笠戸丸」(6,209 G/T)を神戸港から配船。この船には165家族(781人／内単独移民37名)と自由渡航者12人(内2名は船内で病死)の合計793人

		が乗船。17時55分に神戸港内の5番ブイから出港後、西航でシンガポール、ケープタウンに寄港し6月18日にサントス港へ到着。水野による移民はこの1回のみで終わったが、大正3年までに随時6隻が就航。大阪商船が海軍から払下げを受けた「笠戸丸」は、大正5年12月29日に再び南米航路に就航、第2船以降は「たこま丸」型2隻就航。
1912年	大正元年11月	(株)川崎造船所のガントリークレーンが竣工。長さ303m、高さ50m、幅40mで使用鋼材は1万5千トン、建造費1千万円。(当時、うどん1銭20厘)
1913年	大正2年8月20日 大正2年8月 大正2年11月15日	第4突堤竣工。(現在の新港第1突堤) 新開地の聚楽館落成。 第1突堤竣工。(現在の新港第4突堤)
1914年	大正3年7月28日 大正3年9月20日	第1次世界大戦勃発。神戸港第1期修築工事に遅れが生じる。ドイツ潜水艦の攻撃で船腹が激減、日本商船隊の活動要請と新造船の注文が殺到。 第2突堤竣工。(現在の新港第3突堤)
1915年	大正4年10月4日	大阪商船(株)が「ばなま丸」(6,059 G/T)「志あとの丸」(6,182 G/T)の2隻を投入し、月1便の神戸～サンフランシスコ航路開設。(大正6年6月廃止)
1917年	大正6年	この年、神戸の人口558,319人。神戸港輸出貨物量1,777,365トン、同輸入貨物量2,184,505トン、価額ベースでは、輸出額479,771,000円、輸入額530,929,000円。外国航路入港船舶数2,563隻、5,425,457総トン。
1918年	大正7年8月12日	米騒動発生、神戸に波及。
1919年	大正8年4月10日 大正8年7月	川崎汽船(株)設立。 神戸港第2期修築工事着工。(第4突堤東半面、第5突堤、第6突堤、中突堤、兵庫第1突堤、兵庫第2突堤、上屋33棟、防波堤5,337m、鉄道17,060m、物揚場5,228㎡など)
1920年	大正9年9月30日 大正9年10月9日	第3突堤竣工。(現在の新港第2突堤) 神戸港第2期修築工事起工式開催。(昭和14年5月竣工)
1921年	大正10年3月20日 大正10年7月 大正10年	神戸開港50年、市制実施30年、水道拡張工事完成、須磨町合併などの総合記念祝賀会を開催。 神戸港第1期修築工事の全上屋建設工事が完了、神戸税関に引き継ぐ。 この年、税関が第1突堤先端(現／新港第4突堤)に神戸港信号所を設置。(昭和12年6月15日に新港第5突堤先端部に移設、神戸海運局の所管を経て昭和22年海上保安庁の設置により、神戸海上保安部所管となる。用途廃止となり、平成4年1月27日高浜岸壁南東角に移設保存)
1922年	大正11年5月16日 大正11年6月28日	神戸港第1期修築工事竣工式挙行。(7月に全工事竣工) メリケン波止場の増築、及び嵩上げ工事着工。(大正14年5月15日竣工)
1923年	大正12年9月1日 大正12年12月9日	関東大震災発生、鉄道の不通で神戸港は緊急救援物資輸送基地となる。 三菱造船(株)神戸造船所で、神戸高等商船学校練習帆船「進徳丸」(4檣バーカントイン型、2,518 G/T)が進水。
1924年	大正13年3月1日 大正13年12月20日	港域拡張。開港港則の改正により「神戸港の境界は新在家の東角より南15°西に引きたる一線と和田岬より北84°34′東に引きたる他の一線との二線を境界となしたる面積内」となり、東部は市、郡境界の新在家まで拡張。 兵庫県港務部は神戸税関に統合され神戸税関港務部となる。
1925年	大正14年1月6日 大正14年4月1日	摩耶鋼索鉄道営業開始。 神戸市は県営船渠(通称国産波止場)を県から譲り受ける。
1926年	昭和元年	この年、神戸の人口651,600人。神戸港輸出貨物量1,299,105トン、同輸入貨物量3,823,573トン、価額ベースでは、輸出額680,682,000円、輸入額1,052,418,000円。外国航路入港船舶数3,926隻、22,537,491総トン。
1927年	昭和2年3月31日 昭和2年12月26日	神戸税関の本館庁舎竣工。 三井棧橋完成。
1928年	昭和3年3月 昭和3年12月23日	生田区山本通3番に内務省神戸移民収容所開設。大阪商船による第1回移民船「はわい丸」(9,482 G/T)がハワイ移民670人を乗せ神戸港出航。 表六甲ドライブウェイ開通。
1930年	昭和5年1月27日	(株)川崎造船所で文部省航海練習所練習帆船初代「日本丸」(4檣バーク型、2,280 G/T)進水。

1930年	昭和5年2月14日	(株)川崎造船所で文部省航海練習所練習帆船初代「海王丸」(4檣バーク型、2,251 G/T) 進水。
	昭和5年9月20日	観艦式記念「海港博覧会」開催。(9月20日～11月1日)
	昭和5年10月26日	昭和天皇をお迎えして特別大演習観艦式を神戸港沖で開催。艦艇165隻、航空機72機が参加。
1931年	昭和6年4月	荻藻島運河竣工。
	昭和6年10月	突堤の名称を変更。従来の第4突堤が新港第1突堤になり、以下西から新港第2、第3、第4突堤に改称。
	昭和6年11月	新港第5突堤竣工。
1932年	昭和7年2月27日	イギリスの豪華客船「EMPRESS OF BRITAIN」(42,348 G/T) が世界一周航海の途上初入港。市民1万人余が歓迎、3月2日出港。
	昭和7年3月10日	六甲越有馬鉄道の土橋～山上間ケーブル営業開始。
	昭和7年4月20日	神戸市中央卸売市場完成。(昭和5年8月28日着工)



昭和11年のバナナ荷役風景



「EMPRESS OF BRITAIN」(42,348 G/T)
(昭和7年2月27日)

1933年	昭和8年11月6日	兵庫突堤竣工。
	昭和8年11月7日	第1回「みなとの祭」開催。(～11月8日)
1934年	昭和9年9月21日	室戸台風が襲来。高潮で神戸港は甚大な被害を受ける。
1935年	昭和10年4月	新港第5突堤S上屋竣工。
	昭和10年	この年、神戸の人口912,179人。神戸港総取扱貨物量14,786,591トンで輸出貨物量2,161,168トン、輸入貨物量3,913,631トン。年間入港船舶数105,642隻、うち外国航路船舶4,418隻。
1936年	昭和11年3月	新港第6突堤竣工。
	昭和11年10月29日	昭和天皇をお迎えして大演習観艦式を阪神沖で開催。艦艇100隻、航空機約100機が参加。
1937年	昭和12年3月	日英間で居留地の永代借地制度解消に関する公文を交換。
1938年	昭和13年2月28日	中突堤竣工。(昭和4年2月着工)
	昭和13年3月31日	港域拡張。開港港則の改正により神戸港港域は「東は芦屋川口より南42°30′西に引ききたる一線および西は妙法寺川口より南87°東に引ききたる一線を境界とする面積内」となり、東は芦屋川、西は須磨まで東西に大拡張。
	昭和13年4月21日	神戸市制50周年記念式典開催。
	昭和13年7月5日	阪神間で未曾有の土石流による「阪神大水害」発生。
1939年	昭和14年5月	神戸港第2期修築工事竣工。
	昭和14年12月1日	(株)川崎造船所から川崎重工業(株)に社名変更。
1941年	昭和16年7月20日	第1回「海の記念日」式典開催。
	昭和16年12月8日	太平洋戦争勃発。(第二次世界大戦)
1942年	昭和17年4月1日	居留地の永代借地権制度解消。(永代借地権は土地所有権に改める)
1945年	昭和20年3月17日	B-29爆撃機60機による夜間大空襲。3時間にわたる爆撃で神戸の西半分に甚大な被害。死者2,598名、負傷者8,500余名。港の倉庫約38,000坪が被災。
	昭和20年6月5日	B-29爆撃機350機による大空襲で東神戸一帯と須磨区が灰燼に帰した。神戸市周辺の死者3,454名、負傷者6,094名。
	昭和20年8月15日	第二次世界大戦終結。(戦没者は全国で約310万人)
	昭和20年9月	市内公私の建物、港湾施設など進駐軍による接收開始。闇市が出現。

1945年	昭和20年10月15日 昭和20年11月1日 昭和20年	神戸港内水域の掃海に着手。敷設機雷数400個以上、触雷船舶20隻以上。 神戸市復興本部設置。 この年、神戸の人口378,592人。神戸港総取扱貨物量は戦禍で不明、輸出入価額は輸出12,771,000円、輸入13,854,000円。年間入港船舶数3,801隻、うち外国航路船舶26隻。
1946年	昭和21年8月24日	爆撃により明石二見沖で搁座した、神戸高等商船学校練習帆船初代「進徳丸」(2,518 G/T) が建造した三菱重工業(株)神戸造船所の協力を得て救助され、改装後は汽船練習船として現役復帰。
	昭和21年11月22日	兵庫突堤基部の進駐軍による接收解除第1号。
	昭和21年12月	元町3丁目に航空機資材を利用したジュラルミン街が完成。
1947年	昭和22年2月	兵庫第1突堤、兵庫第2突堤の進駐軍による接收解除。
	昭和22年5月3日	新憲法施行。
	昭和22年6月5日	日本船主協会設立。
	昭和22年8月15日	制限付きで民間貿易再開。
1948年	昭和23年7月15日	「港則法」公布。従来の「開港港則」は廃止、新たに「港域法」公布。神戸港港域は「妙法寺川口左岸突端から93°に引いた線、芦屋川口左岸突端から222°30'に引いた線、および陸岸により囲まれた海面」となる。
	昭和23年8月5日	遠洋不定期航路再開。内外海運の小型タンカー「橋立丸」(9,885 G/T) がペルシャ湾パーレーン島に向け横浜を出航、10月1日に尾道に帰港。
	昭和23年10月16日	兵庫県港運協会設立。
1949年	昭和24年4月25日	1ドル=360円の公式為替レート実施。
	昭和24年12月1日	輸出の民間貿易許可。
1950年	昭和25年1月1日	輸入の民間貿易許可、貿易は完全自由化。
	昭和25年3月15日	日本貿易産業博覧会(神戸博覧会)を開催。主会場は王子公園、第2会場は湊川公園。(～6月25日)
	昭和25年4月	新港第5突堤と新港第6突堤の一部について進駐軍による接收解除
	昭和25年5月31日	「港湾法」制定。公布、施行される。
	昭和25年12月1日	神戸市建設局港湾部を港湾局に昇格。

⑤神戸市港湾局の誕生からコンテナ化時代の到来まで(1951年～1967年)

1951年	昭和26年3月31日	神戸市申請の神戸港港湾区域認可。神戸港港湾区域は「妙法寺川口左岸突端から93°に引いた線、傍示川口(神戸市と芦屋市の境界海岸)右岸突端から221°51'に引いた線、および陸岸により囲まれた海面」となる。
	昭和26年4月1日	神戸市が神戸港港湾管理者となる。
	昭和26年5月19日	神戸港湾審議会設置。
	昭和26年6月1日	運輸省設置。
	昭和26年7月1日	国有港湾施設、運輸省より神戸市へ管理委託。神戸市が神戸港港湾管理運営業務開始。
	昭和26年9月22日	神戸港が特定重要港湾に指定される。
1952年	昭和27年3月22日	メリケン波止場、新港第4突堤の進駐軍による接收解除。
	昭和27年3月29日	都賀川西部海面埋立と灘埠頭竣工式挙行。(昭和15年3月着工)
	昭和27年4月7日	新港第4突堤に客船「LA MARSEILLAISE」(17,408 G/T) 入港。
	昭和27年5月26日	神戸商船大学設立。(旧神戸高等商船学校)
	昭和27年6月	新港第2突堤・第3突堤Vバース、東遊園地が進駐軍の接收解除。
	昭和27年6月30日	戦後初の欧州航路再開第1船「永安丸」(6,478 G/T) が出航。(第4突堤Oバース)
	昭和27年10月1日	神戸市立船客待合所開設。
	昭和27年10月	新港第1突堤、進駐軍の接收解除。
	昭和27年10月9日	第1回「国際港湾会議」を神戸港で開催。17か国300人が参加。(～10月10日)
1953年	昭和28年10月19日	市立海員会館、進駐軍の接收解除。
	昭和28年10月24日	新港第7西突堤竣工。(昭和26年4月着工)
	昭和28年12月28日	弁天埠頭竣工。(昭和25年12月着工)

1954年	昭和29年 3月	神戸港の舄（はしけ）数、約900隻。
	昭和29年 3月31日	戦後最大の大型外国客船「CARONIA」（37,172 G/T）が世界一周航海で神戸港初入港。
	昭和29年 4月7日	昭和天皇と皇后両陛下が神戸港御視察。
1955年	昭和29年 7月20日	第1回「海の女王」選定。
	昭和30年 4月16日	南氷洋捕鯨母船「図南丸」（19,308 G/T）初入港。（第5突堤Sバース）

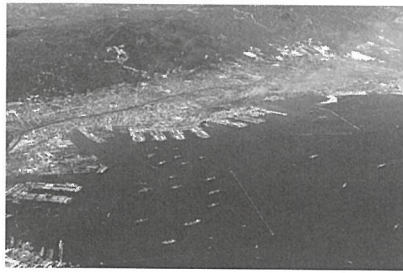


昭和26年頃の神戸港

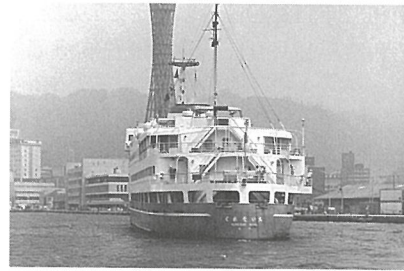


南氷洋捕鯨母船「図南丸」出航風景

	昭和30年 7月12日	市営奥摩耶架空索道（ロープウェー）営業開始。
	昭和30年	この年、神戸の人口981,318人。神戸港総取扱貨物量11,632,678トンで輸出貨物量2,455,849トン、輸入貨物量4,151,399トン。年間入港船舶数58,543隻、うち外国航路船舶3,865隻。
1956年	昭和31年 1月21日	新港第7西突堤の上部構造建設修祓式と鉄道開通式挙行。
	昭和31年 3月	メリケン波止場2度目の嵩上げ工事竣工。（昭和30年10月着工）
	昭和31年 5月	第7突堤サイロ建設工事竣工。（昭和30年6月着工）
1957年		第7突堤東側竣工。（昭和27年12月着工）
	昭和31年10月	昭和天皇と皇后両陛下が神戸市水上児童寮御視察。
	昭和32年 4月26日	神戸市役所新庁舎（加納町／現第2号館）落成。港湾局2階へ移る。新庁舎の開扉式と花時計（日本初）の始動式開催。
	昭和32年 7月1日	メリケン波止場先端に船客待合所開設。（7月3日落成式）
	昭和32年 8月17日	奥再度山ドライブウェー開通。
	昭和32年10月	兵庫運河水面貯木場完成。
	昭和32年10月21日	神戸市はシアトル市と姉妹都市提携締結。
1958年	昭和32年12月25日	港湾区域拡張。神戸港港湾区域は「堺川口（垂水区）左岸突端から90°に引いた線、傍示川口右岸突端から222°に引いた線、および陸岸により囲まれた海面ならびに新川、兵庫運河両水面、および高橋川本庄橋、新湊川駒栄橋、妙法寺川古川橋各下流の河川水面」となる。（昭和33年1月9日実施）
	昭和33年 4月	神戸港海岸保全地域に指定され、市が海岸管理者となる。
	昭和33年 9月2日	社団法人神戸港振興協会設立。
	昭和33年10月21日	神戸開港90周年記念式典挙行。開港90周年を祝し市章山電飾。（電球約200個で10月21日～23日まで点灯）
1959年	昭和34年2月20日	新港第6突堤の進駐軍による接收部分解除で返還式実施。（新港第6西突堤の一部は未返還）
	昭和34年 3月14日	港域法の一部改正で港と河川の境界が明示され、神戸港港湾区域は「堺川口左岸突端から90°に引いた線、芦屋川口左岸突端から222°30′に引いた線、および陸岸により囲まれた海面、高橋川本庄橋、新湊川駒栄橋、妙法寺川古川橋各下流河川水面並びに新川運河および兵庫運河の各運河水面」となる。
	昭和34年 5月8日	運輸省航海訓練所の練習帆船「海王丸」（2,251 G/T）が神戸港中突堤からサンフランシスコへ向け遠洋航海に出航。昭和16年6月12日の練習帆船「進徳丸」（2,518 G/T）以来18年ぶり。
	昭和34年 5月13日	川崎汽船の「おれごん丸」（10,100 G/T）がブルーリボン賞獲得。太平洋横断の処女航海で230時間9分の新記録を樹立。7月6日、神戸入港時に市長が表彰。
	昭和34年 7月15日	新港第8西突堤供用開始。（6月30日竣工／昭和29年4月着工）



昭和35年の神戸港全景



「くれない丸」(2,928 G/T)

1959年	昭和34年 9月20日	摩耶埠頭起工式と新港第8西突堤竣工式を同時開催。
	昭和34年11月18日	関西汽船別府航路の客船「くれない丸」(2,928 G/T) が新三菱重工業㈱神戸造船所で進水。(昭和35年3月6日就航)
1960年	昭和35年 3月	鶴甲山ベルトコンベア建設工事に着手。(昭和36年3月15日竣工、4月5日供用開始)
	昭和35年 5月23日	東部海面埋立第1工区竣工。(昭和28年10月着工)
	昭和35年 7月24日	関西初の市立ヨットハーバー(現ノ須磨・北ハーバー) 竣工、供用開始。(昭和32年着工)
	昭和35年 8月9日	第1回神戸港ポートセールスを実施。神戸港背後地対策委員会(事務局=神戸港振興協会)が岡山・広島県へミッションを派遣、現地で懇談会開催。
	昭和35年11月5日	運輸省航海訓練所の練習帆船「日本丸」「海王丸」の建造30周年を記念して、神戸港沖で初めて「日本丸」(2,278 G/T) の帆走見学会を実施。招待者は「海王丸」(2,251 G/T) に乗船して帆走を見学。
1961年	昭和36年 2月	神戸港振興協会が「神戸港絵ハガキ」発行、6枚1組50円。
	昭和36年 2月21日	西部港湾物揚場(長田港) 竣工。4月5日、「長田港」と命名。7月1日、本格供用開始。
	昭和36年 3月15日	鶴甲山ベルトコンベア竣工。(4月5日供用開始)
	昭和36年 3月18日	戦後の神戸港で最大のクルーズ船「ROTTERDAM」(37,783 G/T) が第5突堤Sバースに初入港。
	昭和36年 5月1日	メリケン波止場、中突堤先端、船舶給水所棧橋の船舶用清水自動販売機供用開始。(3月設置)
	昭和36年 5月	この頃から、年末にかけて深刻な船混み発生。
	昭和36年 7月1日	長田港本格供用開始。(昭和32年着工)



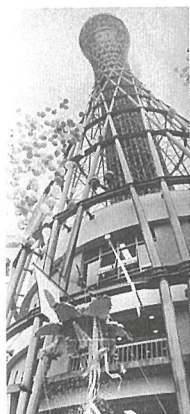
「ROTTERDAM」(37,783 G/T) 初入港



船舶用清水自動販売機

1962年	昭和36年 7月2日	神戸市はマルセイユ市と姉妹都市提携締結。
	昭和37年 4月7日	南海汽船の神戸～大阪～和歌山～白浜航路に水中翼船「つばさ」が就航。「海のジェット機」と呼ばれ、神戸と白浜間を3時間で結ぶ。
	昭和37年 4月19日	中突堤中央船客待合所ビル完成。(昭和36年3月3日着工)
	昭和37年 9月4日	川崎重工業㈱神戸工場でガントリークレーンによる最後の建造船「ベルガルフ・エンタープライズ」(18,651 DW/T) が進水。同日を以て50年間使われたガントリークレーンは引退。

1962年	昭和37年11月29日 昭和37年12月9日	新港第7突堤基部サイロ竣工。 運輸省航海訓練所の練習船「進徳丸」(2,518 G/T) 現役引退。神戸商船大学(現神戸大学海事科学部)で陸上保存となる。
1963年	昭和38年3月 昭和38年4月11日 昭和38年4月25日	住吉川河中道路運行開始。 イギリスの大型クルーズ船「ORIANA」(41,923 G/T) 初入港。 中突堤に神戸国際港湾博物館竣工。兵庫県の登録博物館第1号として4月26日オープン。(昭和62年3月閉館)
	昭和38年7月4日 昭和38年9月30日 昭和38年11月20日	淡路フェリーボートが長田港～淡路島・浦港航路開設。(1日24便) 神戸ポートタワー音頭を発表、レコード発売。 神戸ポートタワー竣工。入場料大人150円、小人80円。(11月21日オープン／昭和37年8月13日着工)
	昭和38年12月23日	港湾区域変更。神戸港港湾区域は「堺川口左岸突端(北緯34°37'53"東経135°5'43")から90°、11,000mの地点まで引いた線と、傍示川口右岸突端(北緯34°42'57"東経135°18'23")から175°、4,300mの地点まで引いた線、これらの地点を結んだ線、および陸岸により囲まれた海面ならびに新川・兵庫両運河水面および高橋川本庄橋、新湊川駒栄橋、妙法寺川古川橋、各下流の河川水面」となる。



神戸ポートタワー開業



神戸開港百年祭祝賀式

1964年	昭和39年1月16日	須磨ベルトコンベアが完工、運転開始。高倉山の土砂を埋立地までプッシャーバージで海上運搬。
	昭和39年2月10日	摩耶埠頭第1突堤西側のA・Bバース供用開始。第1船として飯野海運の「健島丸」(8,853 G/T)、日本郵船の「瀬田丸」(9,271 G/T) 入港。
	昭和39年3月1日	国鉄臨港線の蒸気機関車をDD13型ディーゼル車に切換え。
	昭和39年3月6日	寄神海事工業所の世界最大の1,000トン吊り海上起重機船「昭鶴」を起工。
	昭和39年9月25日	台風20号襲来。24億円の貨物が流出し、摩耶埠頭と建設中の第5防波堤が被災、被害総額30億円に達した。
	昭和39年12月22日	西部海面埋立第3工区竣工。(昭和36年1月31日着工)
	昭和39年	この年、摩耶埠頭第4突堤着工。(昭和40年竣工)
1965年	昭和40年2月24日	兵庫第3突堤U上屋(バナナ上屋)竣工。全国のパナナ取扱業者が集まってつくった神戸バナナセンター(株)が利用。
	昭和40年3月2日	神戸バナナセンター(株)開設後の第1船として大阪商船三井船舶(株)の「高砂丸」(2,580 G/T) が台湾バナナ13,000籠(約640トン)を荷揚げ、1時間30分で燻蒸を終え搬出。神戸港では年間18万トン、全国の60%のパナナを輸入。
	昭和40年4月1日	VHFコウベポートラジオ開局。(市庁舎屋上)
	昭和40年4月30日	西部海面埋立第2工区竣工。(昭和39年6月15日着工)
	昭和40年5月1日	西部海面埋立第1工区竣工。(昭和32年4月着工)
	昭和40年5月22日	港則法改正。港域法廃止で港湾区域変更。神戸港港湾区域は「堺川口左岸突端から90°、11,000mの地点まで引いた線、芦屋川口左岸突端から175°、4,300mの地点まで引いた線、これらの地点を結んだ線および陸岸により囲まれた海面、高橋川本庄橋、新湊川駒栄橋、妙法寺川古川橋各下流の河川水面並びに新川運河及び兵庫運河の各運河水面」となった。

1965年	昭和40年 9月13日	東部海面埋立第2工区竣工。(昭和35年12月着工)
	昭和40年 9月28日	摩耶埠頭第2突堤供用開始。
	昭和40年10月 1日	三宮地下街第1期工事竣工。 国勢調査の結果、神戸市の人口1,216,579人で、うち水面居住者は男性が1,483人、女性が777人の合計2,260人。艇は528隻で1,211人、機帆船が300隻で766人、汽船が109隻で283人。
	昭和40年10月23日	兵庫第3突堤竣工。(昭和33年10月着工)
	昭和40年	この年、神戸市の人口1,216,666人。神戸港総取扱貨物量42,173,356トン、うち輸出貨物量7,092,478トン、輸入貨物量9,260,183トン。総入港船舶数121,996隻、うち外国航路船舶7,249隻。
	1966年	昭和41年 1月31日 苅藻島木材整理場竣工。
	昭和41年 3月18日	戦前戦後を通じ最大の客船、イギリスの「CANBERRA」(44,807 G/T) 初入港。
	昭和41年 4月14日	ポートアイランド造成に着手。(昭和43年10月9日起工式、昭和56年2月4日竣工)
	昭和41年 4月	世界で初めてアメリカのシーランド社が北米東岸～欧州間でコンテナ国際輸送開始。
	昭和41年 5月20日	摩耶大橋竣工。(昭和34年着工、昭和41年6月2日開通式)
	昭和41年12月26日	日本郵船「甲斐丸」(11,938 G/T) (三菱重工業㈱神戸造船所建造の日本最速貨物船／最高速力25.02ノット) 初入港。
	昭和41年12月27日	摩耶埠頭第3突堤供用開始。
1967年	昭和42年 3月	摩耶埠頭竣工。(昭和34年4月着工、昭和34年9月20日起工式)
	昭和42年 4月25日	摩耶埠頭に神戸タグボートセンター竣工。
	昭和42年 5月15日	神戸開港100年記念式典開催。神戸開港100年祭記念事業として、市章山の市章を永久電飾、摩耶大橋も期間中電飾。また、記念碑(扇港百展)を兵庫埠頭基部に設置。神戸国際貿易センタービルの建設や開港100年記念展覧会などを実施。神戸港はシアトル港、ロッテルダム港と姉妹港提携。

⑥コンテナ化時代の到来からポートアイランドの竣工まで (1967年～1981年)



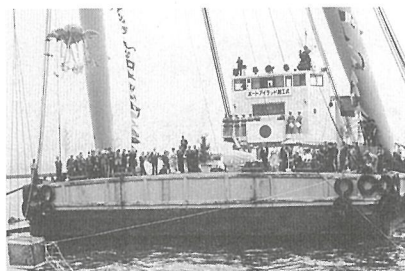
米マトソン社「HAWAIIAN PLANTER」
(14,019 G/T)



日本初のコンテナ船「箱根丸」
(16,240 G/T)

	昭和42年 9月17日	米国マトソン社コンテナ船「HAWAIIAN PLANTER」(14,019 G/T、24フィートコンテナ460本積み) が摩耶埠頭第3突堤Nバースに初入港。本船クレーンを使い日本初のコンテナ荷役を実施。(PSW航路)
	昭和42年10月20日	阪神外貿埠頭公団発足。
	昭和42年11月29日	米国マトソン社コンテナ船「PACIFIC TRADER」(14,019 G/T)、24フィートコンテナ460本積み) が摩耶埠頭第4突堤RSバースに初入港。日本で初めてガントリークレーンと3台のストラドルキャリアを使ったコンテナ荷役を実施。
	昭和42年12月	東部海面埋立第3工区竣工。(昭和37年5月1日着工)
		第8東突堤竣工。(昭和40年6月17日着工)
1968年	昭和43年 2月 9日	三菱重工業㈱神戸造船所で日本初のフルコンテナ船として日本郵船の「箱根丸」(16,240 G/T、752TEU) を起工、5月17日進水。
	昭和43年 2月	神戸開港100年記念事業として、神戸港第1防波堤の白燈台に「神戸港」の文字を書き入れたパネルを設置。文字は女性書道家長浜洸(あきら)さん。

1968年	昭和43年 7月29日	須磨港から淡路島間に淡路フェリーボート就航。
	昭和43年 8月10日	東神戸の魚崎から北九州の小倉間に阪九フェリー就航。
	昭和43年 8月28日	日本郵船の「箱根丸」(16,240 G/T、752TEU) が加州航路 (PSW) に就航、摩耶埠頭第4突堤に初入港。9月15日には昭和海運と日本郵船の共有船「榛名丸」(16,214 G/T、752TEU) が就航。
1969年	昭和43年10月 9日	ポートアイランド起工式挙行。(基礎工事は昭和41年4月14日着工)
	昭和44年 3月	国産波止場の国産2号上屋供用開始。国産2号共同住宅66戸は4月末に入居開始。
	昭和44年 4月17日	神戸港湾調整協議会発足。
	昭和44年 5月 7日	東神戸フェリー埠頭着工。
	昭和44年 5月19日	神戸市はブラジルのリオデジャネイロ市と姉妹都市提携を締結。
	昭和44年 6月17日	日本最大の第Ⅱ世代のフルコンテナ船として日本郵船の「箱崎丸」(23,669 G/T、1,010TEU) が三菱重工業(株)神戸造船所で進水。10月31日に神戸港から豪州航路に就航。
	昭和44年 6月	進駐軍が接収していた第6西突堤の未返還部分の接収解除。これで全面接収解除。
	昭和44年10月20日	神戸商工貿易センタービル(東京霞が関ビルに次ぐ日本第2位の高層ビル)と産業貿易展示館竣工。
	昭和44年11月20日	神戸フェリーセンター(株)業務開始。(9月発足)
	昭和44年12月24日	神戸港年間入港外航船舶数が1万隻突破。
1970年	昭和44年	この年、神戸港の労働者数は船内(常用6,451人、日雇475人)沿岸(常用4,949人、日雇1,398人)、関連(常用1,191人、日雇138人)、いかだ(常用155人)、はしけ(常用1,470人)で合計16,227人。
		この年、総入港外航船隻数10,098隻、PNW航路にもフルコンテナ船が就航(邦船社は昭和45年5月から)、PSW航路のフルコンテナ船入港隻数100隻達成。
	昭和45年 3月14日	大阪で日本万国博覧会「EXPO'70」開催。(3月14日～9月13日)
	昭和45年 3月19日	神戸市港務艇初代「おおわだ」完工。5月20日から運航開始。
	昭和45年 3月	国産波止場の国産3号上屋供用開始。国産3号共同住宅竣工。
	昭和45年 4月10日	神戸ポートターミナル(客船用旅客施設) 竣工。(昭和43年12月29日着工) 神戸大橋開通式(下側4車線) 挙行。(昭和43年5月着工)



ポートアイランド起工式



昭和43年の神戸港全景



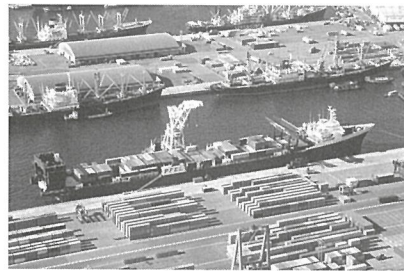
神戸市港務艇「おおわだ」(初代)



神戸大橋親子三代渡り初め



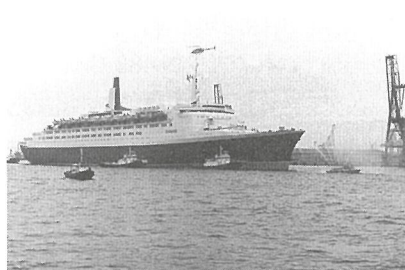
ポートアイランドコンテナバース着岸第1船
SEA-LAND SERVICE INC.「PANAMA」
(17,184 G/T)



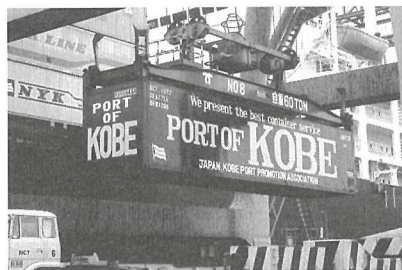
PACIFIC FAR EAST LINE のラッシュ船
「トーマス・E・カフ」(17,676 G/T)

1970年	昭和45年 5月16日	PNW航路に邦船6社共同運航のフルコンテナ第1船「ごうるでんあろう」就航。
	昭和45年 7月 8日	ポートアイランドコンテナバース (PC-1) 供用開始。7月10日に1番船として、アメリカのシーランドサービス社のフルコンテナ船「PANAMA」(17,184 G/T) 入港。(20、35、40フィートコンテナを使用、ターミナルはオンシャーシ方式)
	昭和45年 9月10日	日本初のフェリーポート専用公共バースとして、東神戸フェリー埠頭第4バース竣工、供用開始。(昭和44年5月7日着工)
	昭和45年10月 1日	東部内貿埠頭供用開始。(昭和40年10月13日着工)
	昭和45年10月12日	摩耶埠頭で上屋戸前受制度実施。
	昭和45年10月27日	神戸市はロサンゼルス市と友好協力協定を結ぶ。また、神戸港とロサンゼルス港も友好協力協定を締結。
	昭和45年11月30日	摩耶業務センター竣工。12月6日供用開始。
	昭和45年	この年、ニューヨーク航路にフルコンテナ船就航。(邦船社は昭和47年8月から) また、日本～韓国・香港間にはコンテナフィーダー船就航。
	昭和46年 3月18日	東部海面埋立第4工区竣工。(昭和40年4月1日着工) 第1期海面埋立事業完成記念式挙行。
	昭和46年 4月13日	東神戸フェリー埠頭第3バース供用開始。 東神戸フェリー埠頭第2バース供用開始。
1971年	昭和46年 5月15日	神戸市港湾管理者20周年記念式典挙行。 第1回「神戸まつり」(5月15日～17日) 開催。第1回クイーン神戸選出。
	昭和46年 5月31日	海外移住事業団神戸移住センター閉鎖。昭和2年「神戸移民収容所」建設、昭和3年3月の大阪商船による第1回移民船「はわい丸」(9,482 G/T) の出航以来、「神戸移住教養所」「神戸移住あっせん所」と名称を変えながら、43年間で約20万人を海外に送り出した。
	昭和46年 6月28日	大阪商船三井船舶(株)のタービンエンジンを搭載した第Ⅱ世代フルコンテナ船「らいん丸」(51,085 G/T、1,836TEU) が三菱重工業(株)神戸造船所で進水。
	昭和46年 8月31日	摩耶埠頭第4突堤にアメリカのPACIFIC FAR EAST LINE のラッシュ船「トーマス E. カフ」(17,676 G/T) 初入港。コンテナ船に続く革新荷役船という事で港湾関係者の注目を浴びた。
	昭和46年12月	日本郵船、P&O、ハパックロイドのトリオグループによる極東／欧州航路のフルコンテナサービス開始、日本郵船の「鎌倉丸」(51,139 G/T、1,838TEU) 就航。
	昭和46年	この年、日本、フランス、イタリアのコンテナ6船社が地中海クラブ結成。
	昭和47年 2月 2日	摩耶輸出自動車上屋竣工。(昭和46年1月16日着工)
	昭和47年 3月 1日	神戸市フェリー埠頭公社発足。
	昭和47年 4月 1日	神戸倉庫協会と姫路倉庫協会が合併、兵庫県倉庫協会設立。
	昭和47年 4月 6日	商船三井客船「につぼん丸」(10,720 G/T) (前／南米移住船「あるぜんちな丸」10,971 G/T) がクルーズ船に改装され、神戸港から処女航海に旅立つ。
1972年	昭和47年 9月29日	日中共同声明が調印され、両国の国交正常化。
	昭和47年10月	邦船社の西地中海航路フルコンテナサービス開始。
	昭和47年11月 1日	六甲アイランド造成着手。(平成4年9月25日竣工)
	昭和48年 1月	ポートアイランド危険品バース完成。
1973年	昭和48年 1月	

1973年	昭和48年 2月21日	ポートアイランドライナーバースPL-1～RL-3供用開始。
	昭和48年 3月31日	東部第4工区に神戸深江フェリー埠頭竣工、供用開始。関西汽船の「にちなん丸」(6,115 G/T) が第1船として入港。
	昭和48年 4月	神戸港イメージアップのため「C・C・G作戦」(クリーン・カラー・グリーン作戦) 展開。
	昭和48年 6月24日	神戸市は中国・天津市と友好都市提携を締結。
	昭和48年10月16日	第1回「ポートボリス賞」表彰式開催。
	昭和48年11月1日	第1次オイルショックでトイレットペーパーの買いだめパニック発生。船用A重油は1リットル12円から30円に急騰、諸物価も高騰。
	昭和48年	この年、港湾関連産業の就業者数は61,000人。港湾依存産業への就業者数は129,000人で神戸市全体の就業者数613,000人の21%を占めた。また、港湾関連産業の発生所得は2,367億円、港湾依存産業の発生所得は2,995億円で合計5,362億円となり、市内純生産の38.5%にあたる。これら本源所得の支出による派生所得は1,243億円と推計され、この合計額6,605億円は市内純生産1兆3,884億円の47.5%にのぼる。
		この年、神戸港総取扱貨物量142,308,254トン、うち輸出貨物量15,493,723トン、輸入貨物量20,528,151トン。総入港船舶数142,751隻、うち外国航路船舶10,197隻。また、フルコンテナ船の入港隻数1,069隻で初めて1千隻を超え、コンテナ貨物取扱量10,116,149トンで重量ベースで初めて世界1位。
		[取扱個数は、1位 ニューヨーク港、2位 ロッテルダム港、3位 神戸港]
		ノルウェーのクルーズ船「ROYAL VIKING SKY」(21,891 G/T) 初入港。
1974年	昭和49年 4月10日	神戸～門司間でバージによる内航コンテナフィーダーサービス開始。(摩耶埠頭第4突堤)
	昭和49年 6月6日	神戸市はソビエト連邦のリガ市と姉妹都市提携締結。
	昭和49年 6月18日	地中海クラブ(6船社) が地中海航路フルコンテナサービス(月2便) 開始。
	昭和49年 9月	この年、神戸港のコンテナ取引相手国70か国を超える。また、コンテナ貨物取扱量11,146,887トン、707,894TEUで重量ベースで2年連続世界1位。
	昭和49年	[取扱個数は、1位 ニューヨーク港、2位 ロッテルダム港、3位 神戸港]
1975年	昭和50年 3月5日	海の女王と呼ばれる、イギリスの大型クルーズ船「QUEEN ELIZABETH 2」(65,863 G/T) 初入港。5日、6日の2日間に約20万人の見物客が訪れた。
	昭和50年 9月2日	ナホカ航路の邦船社フルコンテナサービス第1船「シベリア丸」(4,868G/T) 初入港。



「QUEEN ELIZABETH 2」
(65,863 G/T)



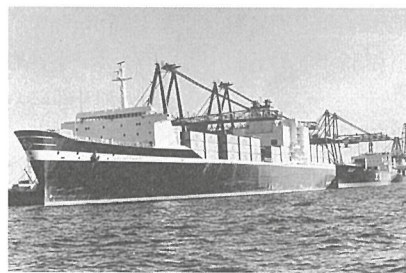
コンテナ輸送開始10年の記念パン

	昭和50年10月1日	新港突堤で航路別優先バース方式を採用。新港第1突堤Fバースは東南アジア航路、新港第5突堤Uバースはニュージーランド航路、新港第6突堤Wバースはインドネシア航路優先バースとして供用開始。
	昭和50年	この年、神戸港コンテナ貨物取扱量10,834,813トン、720,493TEUで重量ベースで3年連続世界1位。
		[取扱個数は、1位 ニューヨーク港、2位 ロッテルダム港、3位 神戸港]
1976年	昭和51年 2月25日	日本最大となる日本郵船の第Ⅲ世代コンテナ船「春日丸」(58,438 G/T、2,326TEU) が三菱重工業(株)神戸造船所で進水、8月31日、欧州航路船として神戸初入港。
	昭和51年 5月8日	ポートアイランド北公園オープン。

1976年	昭和51年 6月14日	アメリカの多目的RO／RO船「MAINE」(18,000 G/T) が新港第3突堤に初入港。
	昭和51年10月25日	ニュージーランド航路がフルコンテナ化、ジャパンラインと大阪商船三井船舶の共有船「ごっとういっと」(31,671 G/T、1,466TEU) が神戸起こしで就航。
	昭和51年10月26日	リベリアのクルーズ船「フェアスター」(21,690 G/T) 初入港。
	昭和51年	この年、神戸港のコンテナ貨物取扱量15,994,121トン、1,008,022TEUで重量ベースで4年連続世界1位。 [取扱個数は、世界1位 ニューヨーク港、2位 神戸港、3位 ロッテルダム港]
1977年	昭和52年 5月12日	神戸開港110年記念式典開催。
	昭和52年 6月17日	神戸港ロンドン事務所開設。
	昭和52年10月 5日	「コンテナ輸送開始10年」記念行事開催。日本郵船の協力を得て40フィートドライコンテナを緑色に塗装し、「PORT OF KOBE」と黄色で大書した記念コンテナを摩耶埠頭第4突堤から「氷川丸」(24,771 G/T) に船積みして北米西岸から東岸まで大陸横断輸送を行い神戸港をPR。
	昭和52年10月 8日	ポートアイランド中公園(原口忠次郎公園) オープン。
	昭和52年11月19日	新港地区と摩耶埠頭を結ぶ港湾幹線道路(ハーバーハイウェイ) 上部東行き2.2km、2車線開通。
1978年	昭和52年	この年、神戸港コンテナ貨物取扱量18,515,606トン、1,134,786TEUで重量ベースで5年連続世界1位。 [取扱個数は、世界1位 ニューヨーク港、2位 神戸港、3位 ロッテルダム港]
	昭和53年 1月21日	シーランドサービスのフルコンテナ船「WORLD TIGER」(10,381 G/T) が中近東航路1番船でポートアイランドPC-1入港。
	昭和53年 2月	日本郵船、大阪商船三井船舶、川崎汽船の3社が2隻のフルコンテナ船を投入して西豪州航路(月／2便) 開設。
	昭和53年 4月24日	第1回扇港賞贈呈式開催。
	昭和53年 7月 1日	西日本最大級の神戸市立須磨ヨットハーバー(南ハーバー) オープン。北ハーバーと合わせヨットとモーターボートを500隻収容可能。



ポートアイランド北公園「みなと異人館」



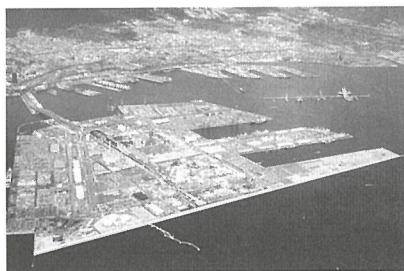
ポートアイランドコンテナバース
PC-1～PC-5

	昭和53年10月26日	ポートアイランド北公園「みなと異人館」オープン。この館は北野町4丁目にあった米国人S.E.ヘイガー邸(明治39年頃建築)で、その後持ち主も変わり、昭和24年から隣接する旧ワサ・ダウン邸(明治38年建築)とともに日本郵船の船員寮として利用されていたが老朽化が進み、1976年にワサ・ダウン邸を香川県四国村へ移建保存、神戸市に寄贈された旧ヘイガー邸は1978年に解体し北公園へ移建した。斜面に建てられていたので、南側は3階建てで1階は煉瓦造倉庫だったが、1階部分を撤去して休憩所として使いやすいように改造しつつ面影を残して復元した。
	昭和53年	この年、神戸港コンテナ貨物取扱量20,613,347トン、1,274,307TEUで重量ベースで6年連続世界1位。 [取扱個数は、世界1位 ニューヨーク港、2位 ロッテルダム港、3位 神戸港]
1979年	昭和54年 3月27日	船舶電話の自動化開始。
	昭和54年 3月31日	神戸市水上児童寮閉鎖。
	昭和54年 4月 6日	第1次中国研修生(天津港務局5人) 来神。
	昭和54年 5月13日	第1回神戸港カッターレース開催。
	昭和54年 7月17日	神戸市港湾局東京事務所開設。

1979年	昭和54年9月4日	日本郵船の合理化船（18人で運航）「白馬丸」（36,723 G/T、1,584TEU）が三菱重工業(株)神戸造船所で進水。
	昭和54年9月14日	新港地区と摩耶埠頭を結ぶ港湾幹線道路（ハーバーハイウェイ）下部西行きの2.2km、2車線と神戸大橋取付道路東方面連絡部が開通し、国道2号浜手バイパスと接続。
	昭和54年	この年、第2次オイルショックで、船用A重油1リットル45円が75円に高騰。 この年、総取扱貨物量148,073,062トン、うち輸出貨物量19,837,222トン、輸入貨物量22,100,529トン。コンテナ貨物量18,930,239トン、1,153,087 TEU。入港船舶総数110,628隻、うち外国航路船11,026隻。 [コンテナ取扱個数は、世界1位 ニューヨーク港、2位 ロッテルダム港、3位 神戸港]
1980年	昭和55年2月4日	六甲アイランド重量物バース（G・H）供用開始。六甲アイランド供用開始記念式典開催。
	昭和55年3月10日	神戸港で舁（はしけ）の共同運営体制開始。登録舁866隻、船腹量258,796総トン、曳船117隻。
	昭和55年4月1日	神戸みなと病院が新港町に新築竣工し開業。
	昭和55年7月1日	六甲アイランドフェリー第1バース（RF-1）竣工、供用開始。ダイヤモンドフェリーの「おくどうご」（4,445 G/T）が第1船で入港。
	昭和55年8月26日	神戸港は中国・天津港と友好港提携を締結。
	昭和55年12月 昭和55年	六甲アイランド多目的バース（K・L・M）供用開始。 この年、総取扱貨物量150,797,458トン、うち輸出貨物量23,062,796トン、輸入貨物量21,628,901トン。コンテナ貨物量20,822,317トン、1,236,332TEU。入港船舶総数108,121隻、うち外国航路船11,147隻。 [コンテナ取扱個数は、世界1位 ニューヨーク港、2位 ロッテルダム港、3位 神戸港]

⑦ポートアイランドの竣工から阪神・淡路大震災まで（1981年～1995年）

1981年	昭和56年1月21日	海洋科学技術センターの潜水調査船「しんかい2000」が三菱重工業(株)神戸造船所で着水式。
	昭和56年2月4日	人工島ポートアイランド竣工。島内公的施設の合同竣工式開催。
	昭和56年2月5日	三宮とポートアイランドを結ぶ日本初の新交通システム「ポートライナー」開業。（コンピュータ制御による無人運転）
	昭和56年3月	ポートアイランドに神戸国際交流会館、神戸国際展示場、ポートアイランドスポーツセンター、神戸市中央市民病院、みなとじま会館、神戸ポートピアホテル、ポートピアランド、ポートアイランド開発センタービルなどが開設。



ポートアイランド竣工



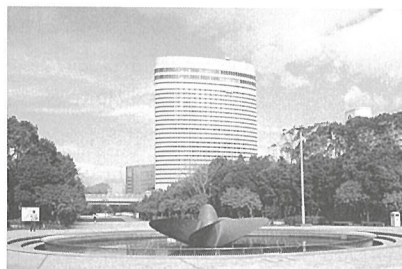
「ポートピア '81」開会式

昭和56年3月19日	神戸ポートアイランド博覧会「ポートピア '81」開会式挙行。（3月20日～9月15日）期間中の来場者は、16,102,752人。
昭和56年5月21日	第1回環太平洋友好港会議開催。（5月21日～23日）天津港、上海港、シアトル港、神戸港の4港、32人が参加。
昭和56年6月4日	神戸～中国・上海間のコンテナ定期航路開設。第1船は、上海COSCOの「撫順城 FU SHUN CHENG」（5,383 G/T、196TEU）。
昭和56年7月22日	神戸～中国・天津間のコンテナ定期航路開設。第1船は、天津COSCOの「伏牛山 FU NIU SHAN」（10,497 G/T、272TEU）。

1981年	昭和56年12月25日 昭和56年	(財)神戸港埠頭公社設立。 この年、総取扱貨物量155,646,544トン、うち輸出貨物量24,242,211トン、輸入貨物量20,920,724トン。コンテナ貨物量22,942,802トン、1,334,938TEU。入港船舶総数102,734隻、うち外国航路船11,340隻。 [コンテナ取扱個数は、世界1位 ロッテルダム港、2位 ニューヨーク港、3位 神戸港]
1982年	昭和57年 3月 1日 昭和57年 3月17日 昭和57年 3月 昭和57年 4月 1日 昭和57年 4月 昭和57年 8月31日 昭和57年10月15日 昭和57年12月23日 昭和57年	神戸中央港湾労働者福祉センター竣工。(新港町) ポートアイランド南公園がオープン。大阪商船三井船舶の「あめりか丸」がタービンエンジンからディーゼルエンジンに主機換装したため不要になった大型スクリュウの寄贈を受け同公園の噴水に使用。 六甲アイランド食糧品バース供用開始。 ポートアイランド南埠頭コンテナバース(PC-10~12) 供用開始。 ポートアイランド北公園東側に官庁船専用棧橋(PI-A) 完成。 神戸ポートタワーの入場者1,000万人達成。 夜間入港規制緩和。大型フルコンテナ船に対し「関門通過時間午後9時まで」を「パイロットの乗船時間が午前零時まで」に時間延長。(神戸港第6防波堤東燈台の光量アップ工事完了まで第2航路のみ適用) 室戸汽船の「フェリーむろと」(6,131 G/T) が就航、神戸~甲浦~足摺航路を開設。 夜間入港規制緩和。大型フルコンテナ船に対する入港時間の延長を第3航路にも適用。 この年、総取扱貨物量144,746,965トン、うち輸出貨物量21,367,888トン、輸入貨物量19,791,202トン。コンテナ貨物量21,285,181トン、1,261,134TEU。入港船舶総数97,982隻、うち外国航路船11,112隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 ロッテルダム港、2位 ニューヨーク港、3位 香港、4位 神戸港]



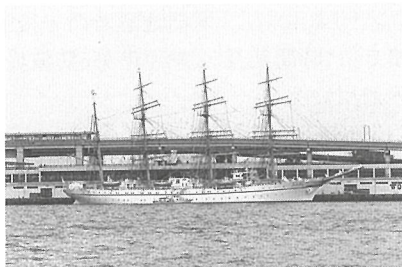
神戸~天津コンテナ航路開設
「伏牛山/FU NIU SHAN」(10,497 G/T、272TEU)



PI南公園のスクリュウ噴水

1983年	昭和58年 1月 1日 昭和58年 3月30日 昭和58年 4月 6日 昭和58年 8月 8日 昭和58年 8月27日 昭和58年10月30日 昭和58年	神戸税関が輸出通関の本船出港48時間前申告制度を廃止し、即日通関に緩和。 六甲大橋全面開通。 西ドイツのハパックロイド社の豪華クルーズ船「EUROPE」(33,819 G/T) が世界一周クルーズでポートターミナルに初入港。 港湾幹線道路(ハーバーハイウェイ) 六甲アイランド~高羽間東行きが竣工し、灘大橋とともに供用開始。 神戸~博多間で内航フルコンテナフィーダーサービス開始。 大島運輸が戦後初めてのクルーズ船「サンシャインふじ」(7,262 G/T) を新造、中突堤に初入港。 この年、総取扱貨物量148,044,384トン、うち輸出貨物量22,059,250トン、輸入貨物量20,523,895トン。コンテナ貨物量22,800,554トン、1,345,956TEU。入港船舶総数92,882隻、うち外国航路船は10,601隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 ロッテルダム港、2位 ニューヨーク港、3位 香港、4位 神戸港]
1984年	昭和59年 3月 1日 昭和59年 4月 1日 昭和59年 5月 4日	神戸市は中国・天津港整備協力書に調印。4月9日、天津港技術協力顧問団(12人)を天津市に派遣。 夜間入港規制緩和。大型フルコンテナ船に対する入港時間延長をPC-6にも適用。 運輸省航海訓練所の練習帆船初代「日本丸」(2,279 G/T) が神戸港に最後の入港。

1984年	昭和59年 6月27日	港湾幹線道路（ハーバーハイウェイ）六甲アイランド～高羽間西行き竣工、供用開始。
	昭和59年 6月28日	第IV世代のコンテナ船として、アメリカのユナイテッド・ステーツ・ラインのジャンボエコンシップ第1船「AMERICAN NEW YORK」（57,075 G/T、4,500TEU）がPC-6に初入港。世界で初めてのオーバーパナマックス形コンテナ船で、船体が大き過ぎてガントリークレーンがオンデッキ3段までしか使えず海上起重機船で海側から荷役。
	昭和59年 7月15日	夜間入港規制緩和。RO／RO船も入港時間の延長（パイロット乗船午前零時まで）を適用。
	昭和59年 9月28日	運輸省航海訓練所の新造練習帆船「日本丸」（2,570 G/T）が神戸港に初入港。
	昭和59年10月 5日	神戸ポートアイランドホール（ワールド記念ホール）落成。
	昭和59年10月14日	省エネ型帆装大型ばら積貨物運搬船「AQUA CITY」（18,597 G/T）初入港。
	昭和59年12月13日	六甲アイランドコンテナバースRC-1／2にパナマックス型スーパーガントリークレーン設置。

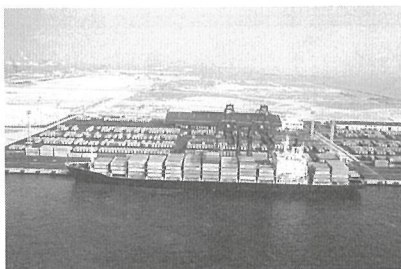


「ROYAL PRINCESS」（44,348 G/T）

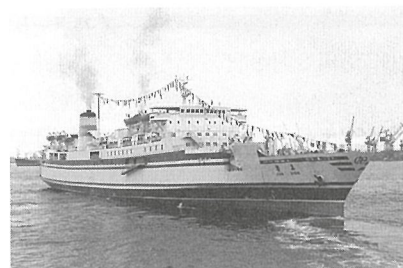


省エネ型帆装大型ばら積貨物運搬船
「AQUA CITY」（18,597 G/T）

	昭和59年	この年、総取扱貨物量157,049,972トン、うち輸出貨物量24,597,955トン、輸入貨物量22,543,721トン。コンテナ貨物量27,304,094トン、1,507,165TEU。入港船舶総数91,489隻、うち外国航路船10,659隻。[コンテナ取扱個数は世界1位 ロッテルダム港、2位 ニューヨーク港、3位 香港、4位 神戸港]
1985年	昭和60年 1月21日	六甲アイランドコンテナバースRC-1／2竣工、供用開始。第1船「SEA-LAND EXPLORER」（32,629 G/T）入港。
	昭和60年 2月 1日	ポートアイランド南埠頭の化学品埠頭（PI-B）竣工、供用開始。
	昭和60年 2月14日	大阪商船三井船舶のフルコンテナ船「てむず丸」（58,653 G/T）が三菱重工業㈱神戸造船所で30mの船体延長工事完工、2,930TEUの日本最大のコンテナ船誕生。
	昭和60年 2月	神戸在住外国人77か国、39,465人。
	昭和60年 3月 3日	神戸海上保安部神戸信号所がポートアイランド南埠頭に竣工。4月16日信号業務開始、7月15日第3航路の航路管制業務を開始。
	昭和60年 4月 1日	神戸市港湾局が韓国にポートエージェント設置。
	昭和60年 5月11日	神戸・天津経済貿易連絡事務所開設。



六甲アイランドコンテナバースRC-1／RC-2竣工
「SEA-LAND EXPLORER」（32,629 G/T）



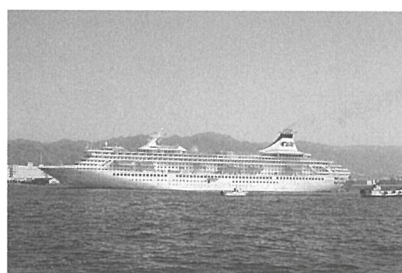
日中定期貨客フェリー「鑑真」
（9,009 G/T）就航

	昭和60年 5月20日	夜間入港規制緩和。六甲アイランド北東のバース（R-J・K・L・M）への入港船は「パイロット乗船時間20時まで」に時間延長。
--	-------------	---

1985年	昭和60年 6月8日 昭和60年 6月18日 昭和60年 7月9日 昭和60年 7月16日 昭和60年 8月24日 昭和60年10月1日 昭和60年11月13日 昭和60年	大鳴門橋（全長1,629mの東洋一の長大橋）開通。 神戸市営地下鉄山手線（大倉山～新神戸）と西神延伸線（名谷～学園都市）開通。 日中定期貨客フェリー「鑒真」（9,009 G/T）就航、営業航海開始。 神戸市はブリスベン市と姉妹都市提携。 ユニバーシアード神戸大会開催。（8月24～9月4日） 危険物夜間荷役をコンテナ船とRO／RO船に対し規制緩和。 第1回神戸港フォークリフト荷役技能向上大会開催。 この年、総取扱貨物量160,458,032トン、うち輸出貨物量25,032,959トン、輸入貨物量22,827,720トン。コンテナ貨物量28,485,852トン、1,518,850TEU。入港船舶総数94,295隻、うち外国航路船10,900隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 ロッテルダム港、2位 ニューヨーク港、3位 香港、4位 高雄港、5位 神戸港]
1986年	昭和61年 3月3日 昭和61年 4月1日 昭和61年 4月 昭和61年 5月1日 昭和61年10月3日 昭和61年10月20日 昭和61年11月19日 昭和61年	神戸海上保安部に大型巡視船「せつつ」（3,744排水トン）配属、12日に初入港。 神戸市港湾局が台湾にポートエージェント設置。 メリケン波止場船客待合所竣工。 六甲アイランドRC-1北側に内航フィーダーバース竣工、供用開始。 国道2号線浜手バイパス全線開通。（昭和48年10月着工） ダイヤモンドフェリーの神戸～松山～大分航路に新造大型フェリー「クイーン・ダイヤモンド」（8,822 G/T）就航。 第1回国際海洋開発・港湾建設展「テクノオーシャン '86」開催。（11月19日～22日） この年、総取扱貨物量157,926,448トン、うち輸出貨物量23,345,970トン、輸入貨物量23,128,743トン。コンテナ貨物量28,625,046トン、1,597,527TEU。入港船舶総数90,027隻、うち外国航路船10,590隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 ロッテルダム港、2位 香港、3位 高雄港、4位 ニューヨーク港、5位 シンガポール港、6位 神戸港]
1987年	昭和62年 3月17日 昭和62年 4月23日 昭和62年 4月24日 昭和62年 4月29日	ポートアイランド第2期工事着工。 イギリスP&O社のクルーズ船「ROYAL PRINCESS」（44,348 G/T）初入港。 阪神～高松間にジェットラインのジェットフォイル（米国ボーイング社製）「ジェット7」「ジェット8」2隻就航。 神戸開港120年祭開幕。（春の祭典／4月29日～5月17日、第2回海の祭典／7月20日～25日）メリケンパーク（15.6ha）オープン。公園南東角の海底にタイムカプセル埋蔵。30年後の2017年に引き揚げ。 神戸海洋博物館竣工。（4月30日営業開始）



神戸開港120年祭開幕



「ROYAL PRINCESS」（44,348 G/T）

昭和62年 5月25日	ソ連「MIKHAIL SHOLOKHOV」（12,798 G/T）が初入港。ペレストロイカ政策で政府招待のロシア人観光客が次々と来日し、関税法で手荷物扱いになる3万円までの中古自動車を買求めた。
昭和62年 7月16日	神戸市立須磨海浜水族園オープン。
昭和62年 7月19日	ルミナス観光のレストランシップ「ルミナス神戸」（3,500 G/T）就航。
昭和62年 7月25日	「第17回みなとこうべ海上花火大会」をメリケンパークに場所を移して開催。
昭和62年 9月5日	究極のパイオニアシップ実験計画船（乗組員11人）として建造された日本郵船「かりふおるにあ まーきゅりー」（41,442 G/T、2,704TEU）が就航、神戸初入港。

1987年 昭和62年10月20日 神戸商船大学新造練習船新「深江丸」(499 G/T) が竣工、ポートターミナルに初入港。



PI西側コンテナバース



神戸ヘリポート開港

昭和62年10月 ハーバーランド～神戸港駅までの臨港鉄道を廃止。

昭和62年11月14日 世界最大の海上起重機船「海翔」(4,100トン吊り、吊り上げ高さ120m) が竣工、ポートターミナルで披露。

昭和62年11月18日 六甲アイランド公共コンテナバース(R-W・X) の供用開始。

昭和62年12月13日 日本初のオーバーパナマックス型ガントリークレーンをポートアイランドPC-5に設置。

昭和62年12月18日 ポートアイランドに公共の神戸ヘリポート開港。

昭和62年 この年、総取扱貨物量159,349,856トン、うち輸出貨物量22,694,713トン、輸入貨物量24,100,569トン。コンテナ貨物量29,581,715トン、1,624,695TEU。入港船舶総数89,362隻、うち外国航路船10,477隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 香港、2位 ロッテルダム港、3位 高雄港、4位 シンガポール港、5位 ニューヨーク港、6位 神戸港]

1988年 昭和63年 3月18日 六甲アイランドフェリー第2バース(RF-2) 供用開始。第1船「ニューはりま」(12,589 G/T) 初入港。

昭和63年 4月10日 瀬戸大橋(世界最長の道路・鉄道併用橋) 開通。

昭和63年 5月12日 運輸省海技大学校の新造練習船「海技丸」(157 G/T) 竣工、初入港。

昭和63年 5月26日 アメリカン・プレジデント・ラインズの第IV世代のオーバーパナマックス型フルコンテナ船(C-10型)「PRESIDENT TRUMAN」(61,926 G/T、4,300 TEU) がPSW航路に就航、初入港。

昭和63年 5月31日 デンマークのマースクラインの第IV世代のコンテナ船「MARCHEN MAERSK」(52,191 G/T、3,922TEU) が世界一周航路に就航、初入港。

昭和63年 7月5日 淡路フェリーボートのウォータージェット推進の双胴高速クルーザー「くいん ろっこう」(217 G/T) 竣工、中突堤初入港。

昭和63年 7月20日 牛肉・オレンジの自由化で日米交渉決着。

昭和63年 9月10日 大阪商船三井船舶と商船三井客船発注の戦後初的大型外航クルーズ船「ふじ丸」(23,340 G/T) が三菱重工業(株)神戸造船所で進水。

昭和63年 9月20日 川崎重工業(株)神戸工場がアメリカのボーイング社「ジェットフォイル」のライセンス生産開始。第1船、佐渡汽船の「つばさ」(164総トン) の着水式挙行。

昭和63年 9月22日 南極観測船「しらせ」(17,600排水トン) が第4突堤Q2バース初入港。

昭和63年 この年、総取扱貨物量166,734,453トン、うち輸出貨物量23,806,864トン、輸入貨物量26,563,653トン。コンテナ貨物量33,319,283トン、1,843,567TEU。入港船舶総数88,854隻、うち外国航路船10,397隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 香港、2位 シンガポール港、3位 ロッテルダム港、4位 高雄港、5位 神戸港]

1989年 昭和64年 1月7日 元号を昭和から平成に改元。

平成元年 1月19日 海洋科学技術センターの深海調査船「しんかい6500」着水式。(三菱重工業(株)神戸造船所)

平成元年 3月24日 神戸市港務艇「おおわだ2」(199 G/T) 就航。

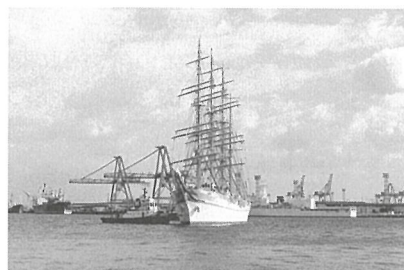
平成元年 4月1日 神戸市制100周年記念式典開催。

日曜荷役再開。(日曜日完休制度の例外措置)

1989年	平成元年 4月17日	昭和海運の「おせあにつぐれいす」(5,218 G/T、戦後初の本格的な外航クルーズ船)就航、ポートターミナルに初入港。日本の「クルーズ元年」を迎える。
	平成元年 4月23日	大阪商船三井船舶と商船三井客船のクルーズ船「ふじ丸」(23,340 G/T)就航、ポートターミナルに初入港。
	平成元年 4月25日	神戸港に初めて「いけすコンテナ」による活魚260kgが中国から輸入。
	平成元年 5月31日	神戸市在住外国人82か国、40,127人。
	平成元年 6月21日	夜間入港規制緩和。パイロット乗船時間「午前零時まで」から「午前2時まで」に時間延長。
	平成元年 6月28日	高浜フェリーターミナル第1バース竣工。8月7日、淡路フェリーボートの第1船入港。
	平成元年 8月19日	神戸市役所の新庁舎(1号館)竣工。地上30階、高さ132m。
	平成元年 9月12日	神戸海洋博物館入館者数100万人達成。
	平成元年 9月15日	フェスピック神戸大会開催。41か国、1,500人参加。(15~20日)
	平成元年12月9日	練習船教育後援会の新造練習帆船「海王丸」(2,556 G/T)初入港。



神戸市港務艇「おおわだ2」(199 G/T)



練習帆船「海王丸」(2,556 G/T)

1990年	平成 2年 2月21日	神戸新交通六甲アイランド線「六甲ライナー」開業。
	平成 2年 4月23日	川崎汽船のクルーズ船「SONG OF FLOWER」(8,282 G/T)が就航、ポートターミナルに初入港。
	平成 2年 6月9日	ZEEクルーズの復元帆船「咸臨丸」(539 G/T)メリケンパーク南護岸に初入港。
	平成 2年 6月23日	クリスタルクルーズの「CRYSTAL HARMONY」(49,400 G/T)が三菱重工業(株)長崎造船所で竣工。就航に先立ち新港第1突堤に初入港、関係者に船内披露。
	平成 2年 7月1日	六甲船客ターミナル竣工、供用開始。
	平成 2年 7月8日	日本クルーズ客船の「おりえんとびいなす」(21,884 G/T)が就航、ポートターミナルに初入港。



「CRYSTAL HARMONY」(49,400 G/T)



「おりえんとびいなす」(21,906 G/T)

	平成 2年 7月20日	神戸~釜山外航定期フェリー航路開設。「檀皇」(9,757 G/T、100TEU)が新港第4突堤Q2バースに初入港。
	平成 2年	この年、総取扱貨物量171,465,111トン、うち輸出貨物量27,501,014トン、輸入貨物量25,953,189トン。コンテナ貨物量38,776,045トン、2,085,305TEU。入港船舶総数92,639隻、うち外国航路船11,073隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 シンガポール港、2位 香港、3位 ロッテルダム港、4位 高雄港、5位 神戸港]
1991年	平成 3年 1月16日	再開発による摩耶埠頭コンテナターミナル竣工、供用開始。

1991年	平成3年4月1日	神戸税関が輸入通関手続の迅速化・適正化策として予備審査制を実施。
	平成3年6月1日	神戸市港湾局がシンガポールにポートエージェント設置。
	平成3年6月10日	神戸市客船誘致協議会設立総会開催。
	平成3年6月25日	川崎重工業(株)神戸工場で一般商船の建造再開。4年8か月ぶりに三光汽船向けLPG運搬船「NOTO GLORIA」(42,286 G/T) 進水。
	平成3年7月15日	三菱重工業(株)神戸造船所で、世界初のハッチカバーレス大型フルコンテナ船「NEDLLOYD EUROPA」(48,508 G/T、3,604TEU) 進水。平成4年2月29日、PC-2初入港。
	平成3年10月3日	第1回神戸港技術交流団(5人)を中国・天津港に派遣。(10月3日～19日)
	平成3年10月14日	神戸港長期計画検討委員会設置。2005年の神戸港長期計画検討。
	平成3年10月23日	市制100周年事業として、新神戸ロプウェー「神戸夢風船」「布引ハーブ園」オープン。
	平成3年10月	再開発していた兵庫第2突堤と第3突堤間埋立完了。
	平成3年12月15日	日本最大のクルーズ船「飛鳥」(28,717 G/T) が三菱重工業(株)長崎造船所で竣工、ポートターミナルに初入港。
	平成3年	この年、総取扱貨物量174,100,929トン、うち輸出貨物量26,883,754トン、輸入貨物量26,842,956トン。コンテナ貨物量39,012,626トン、2,145,533TEU。入港船舶総数91,676隻、うち外国航路船11,392隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 シンガポール港、2位 香港、3位 高雄港、4位 ロッテルダム港、5位 神戸港]

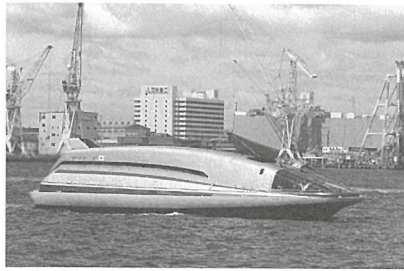


ハッチカバーレス・フルコンテナ船
「NEDLLOYD EUROPA」
(48,508 G/T、3,604TEU)

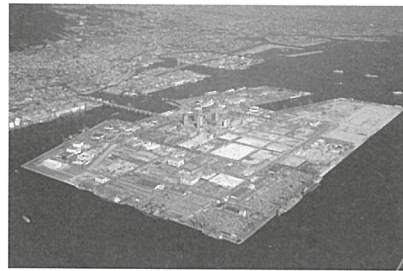


「飛鳥」(28,717 G/T)

1992年	平成4年3月25日	六甲アイランドフェリーバース(RF-1)に神戸港埠頭公社の旅客ターミナルビル完成。
	平成4年4月28日	六甲アイランドに神戸航空貨物ターミナル(株)(K-ACT)設立。復元帆船「サンタマリア」(120 G/T) がスペインのバルセロナから神戸へ到着。メリケンパーク東護岸で加山雄三らが出迎え初入港歓迎。
	平成4年6月16日	超電導電磁推進船「ヤマト1」(280 G/T)の海上試運転を神戸港第1区で開始。世界で初めて約6ノットで航行。
	平成4年7月1日	神戸市港湾局は、香港、ロングビーチ、ロッテルダムにポートエージェントを設置。
	平成4年9月1日	神戸ハーバーランドオープン。(昭和60年着工)
	平成4年9月3日	現役では世界最古(1914年建造/78歳)の洋上図書船「DOULOS」(6,806 G/T)が第4突堤Pバース初入港。
	平成4年9月25日	六甲アイランド埋立工事完了。(昭和47年11月1日着工)
	平成4年10月1日	神戸税関が輸出入通関業務などの電算処理で海上貨物通関情報処理システム(Sea-NACCS)を導入、スタート。
	平成4年	この年、総取扱貨物量169,645,458トン、うち輸出貨物量26,750,695トン、輸入貨物量25,708,229トン。コンテナ貨物量38,688,308トン、2,079,658TEU。入港船舶総数83,551隻、うち外国航路船11,071隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 香港、2位 シンガポール港、3位 ロッテルダム港、4位 高雄港、5位 釜山、6位 神戸港]



超電導電磁推進船「ヤマト1」(280 G/T)



六甲アイランド

1993年

平成5年1月9日 神戸市港務艇「きくすい」(26 G/T) が石原造船所で完工、引渡し。
 平成5年2月1日 神戸税関が航空貨物通関情報処理システム (Air-NACCS) 導入、スタート。
 平成5年2月8日 港湾幹線道路 (ハーバーハイウェイ) 全線開通。(摩耶～高羽大橋が完工)
 平成5年3月24日 神戸港が輸入促進地域 (FAZ) 指定を受ける。
 平成5年3月31日 東神戸大橋 (全長885m) 竣工。(4月2日開通)
 平成5年4月1日 アーバンリゾートフェア神戸'93開幕。(4月1日～9月30日) アーバンクルーザーのレストランシップ「シルフィード」(2,050 G/T) 就航。
 神戸シーバス「ロマン1」「ロマン2」「ロマン3」就航。
 平成5年4月6日 神戸市がスペインのバルセロナ市と姉妹都市提携を結ぶ。
 平成5年5月1日 「帆船『日本丸』『海王丸』in KOBE」開催。2隻の帆船が揃って神戸港沖で公開帆走するのは初めて。
 平成5年7月30日 「KOBEシップパレード」開催。(7月30日～8月1日) 5隻の電飾を施したヨットに続き、7隻の台船にそれぞれフロートを乗せて電飾。タグボートで曳航して神戸港第1区をパレード。
 平成5年9月6日 「アジア・太平洋港湾シンポジウム」「アジア主要港サミット神戸'93」を神戸国際会議場で開催。(9月6日～8日)
 平成5年10月20日 夜間入港規制撤廃。コンテナ船、RO/RO船の入港時間が24時間可能になる。
 平成5年11月19日 政府による米の緊急輸入で、タイからの緊急輸入米7,200トンが神戸港の三井栈橋に到着。
 平成5年 この年、総取扱貨物量168,693,868トン、うち輸出貨物量25,904,474トン、輸入貨物量27,567,381トン。コンテナ貨物量39,843,757トン、2,162,405TEU。入港船舶総数は83,359隻、うち外国航路船10,935隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 香港、2位 シンガポール港、3位 高雄港、4位 ロッテルダム港、5位 釜山、6位 神戸港]



練習帆船『日本丸』『海王丸』in KOBE



KOBEシップパレード

1994年

平成6年2月20日 ルミナス観光(株)の新造レストランシップ「ルミナス神戸2」(4,408 G/T) 就航。
 平成6年3月25日 神戸～高松航路のジェットフォイルが夜間運航開始。
 平成6年3月 市営地下鉄海岸線着工。
 平成6年4月1日 六甲アイランドRC-6、RC-7、RL-1、公共R-Z、内航フィーダーバースR-N2供用開始。
 平成6年4月2日 阪神高速道路5号湾岸線 (六甲アイランド～泉佐野) が一部車線規制を残して全線開通。
 平成6年4月25日 阪神～中国・上海航路に日中国際フェリーの「新鑒真」(14,543 G/T) 就航。

1994年	平成6年5月1日	(財)神戸港厚生サービス協会設立。
	平成6年6月20日	神戸航空貨物ターミナル(K-ACT)開業。(平成5年4月21日着工)
	平成6年6月30日	神戸シティ・エア・ターミナル(K-CAT)竣工。(平成5年3月25日着工)
	平成6年9月4日	神戸マリニルートの開業、神戸ジェットシャトル就航。
	平成6年10月7日	川崎重工業(株)神戸工場で世界最大のアルミ合金製高速双胴カーフェリー「はやぶさ」(2,550 G/T、最高速力35ノット)進水。
	平成6年12月27日	港湾幹線道路(ハーバーハイウェイ)摩耶ランプ東行き供用開始。
	平成6年	この年、総取扱貨物量171,002,459トン、うち輸出貨物量25,859,947トン、輸入貨物量29,368,089トン。コンテナ貨物量42,183,974トン、2,311,432TEU。入港船舶総数87,708隻、うち外国航路船10,836隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 香港、2位 シンガポール港、3位 高雄港、4位 ロッテルダム港、5位 釜山、6位 神戸港]



政府による米の緊急輸入で三井桟橋に
タイから7,200トンの米が到着、陸揚げ



RC-6/7 郵船ターミナル供用開始

⑧阪神・淡路大震災による被災と復興(1995年～1997年)

1995年	平成7年1月17日	兵庫県南部地震が発生。午前5時46分、マグニチュード7.3、震度7の激震が神戸市を襲った。大都市直下型地震で神戸市および神戸港は壊滅的な被害を被った。震災による死傷者数は、全体で40,071人(うち死者6,310人)、被害棟数 247,486棟、被災世帯数444,900世帯。(平成8年12月現在の数字) 道路や鉄道は寸断され、港は東西120kmの水際線のうち116kmが被災、コンテナバース23バースを含む239バースと物揚場23kmも被災、一部は壊滅。
	平成7年1月20日	アーバンクルーザーの「シルフィード」が、マヒした東西陸上交通の代替輸送手段として神戸～大阪間臨時航路を開設。以降、内航船運航各社による西宮、明石、姫路、淡路、四国などへの臨時航路が相次いで開設された。また、震災の救援救護関係者臨時宿泊船として、日本クルーズ客船の「おりえんとびいなす」(21,906 G/T)が新港第4突堤O1バースに接岸。(1月20日～31日)以降、「新さくら丸」(2月1日～16日)、「ニューしらゆり」(2月1日～28日)などがホテルシップとして入港。
	平成7年1月23日	運輸省航海訓練所の練習船「銀河丸」をはじめ「北斗丸」「海王丸」などが次々と支援入港。(1月23日～31日)
	平成7年1月25日	兵庫県南部地震で激甚災害指定を受ける。港湾管理者が中心となって「神戸港復興対策連絡会議」発足。
	平成7年2月1日	調査の結果、神戸港の貨物用56バース、旅客用13バースが本船着岸可能で、コンテナバースは全て使用不能。
	平成7年2月12日	神戸港復興計画委員会発足。
	平成7年2月14日	政府は兵庫県南部地震による大災害を「阪神・淡路大震災」とした。また被災地の神戸ではバレンタインデーのこの日、被災市民を元気づけるために神戸市のシンボル神戸ポートタワーと神戸海洋博物館の夜間ライトアップを再開。
	平成7年2月16日	政府は「阪神・淡路復興委員会」設置。
	平成7年2月17日	神戸港の復興と更なる発展を目指し、平成17年を目標年次とする「神戸港港湾計画」改訂。

1995年

- 平成7年2月25日 復興関連物資輸送に国道43号、生活関連物資輸送に国道2号の輸送ルートを設定し一般車両の大幅規制を実施。海上コンテナトラックの優先通行を許可。(平成8年2月19日規制全面解除)
- 平成7年2月28日 被災した神戸港から他港へ就労した港湾労働者は、大阪港へ6,209人、横浜港90人、東京港35人、名古屋港39人、門司港6人で、依然1日当たり1,000人程度の余剰労働者をかかえる。
- 平成7年3月10日 阪神・淡路復興委員会は「神戸港の早期復興」を提言。
- 平成7年3月20日 暫定復旧した摩耶埠頭コンテナバースに中国・COSCOの北米航路フルコンテナ船「高河」(37,134 G/T)が入港、震災後初めてガントリークレーン2基を使った本格的なコンテナ荷役再開。
- 平成7年4月1日 神戸大橋の上下2車線ずつの暫定供用開始。



六甲アイランドコンテナターミナルの被災



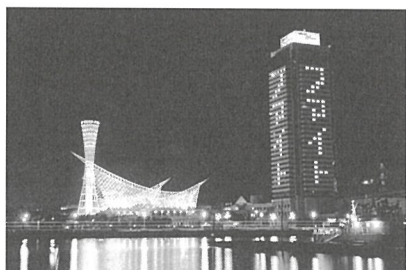
関空からの緊急救援物資を巡視船が輸送



ホテルシップ「しらゆり」



臨時航路開設(メリケンパーク)



被災市民を元気づけたライトアップ



被災した市内の様子

- 平成7年4月8日 神戸ポートタワー、神戸海洋博物館営業再開。(4月8日～11日まで無料開放、来訪者6千人)
- 平成7年4月11日 革新荷役作業、ターミナル運営を日曜・祝日を含む24時間制とする事で港運労使が暫定合意、2交代制で作業開始。
- 平成7年4月27日 阪神・淡路大震災復興支援運輸連絡協議会設立。
- 平成7年4月30日 ポートアイランドコンテナバースPC-2/4/7、六甲アイランドコンテナバースRC-2/4/7の暫定供用開始。各バースにガントリークレーン2基設置。
- 平成7年5月17日 神戸ポートターミナルが仮復旧、業務開始。チャイナエクスプレスライン(株)の国際貨客フェリー「燕京」(9,960 G/T) 寄港再開。(平成8年7月1日本格復旧)
- 平成7年6月1日 神戸市港湾局、ロンドン事務所を閉鎖。新たにポートエージェント設置。
- 平成7年7月3日 日中国際フェリー(株)の国際貨客フェリー「新鑒真」(14,543 G/T) 寄港再開。

1995年	平成7年7月31日	新交通システム「ポートライナー」が全線運行再開。
	平成7年8月1日	摩耶大橋が全面開通。
	平成7年8月23日	新交通システム「六甲ライナー」が全線運行再開。
	平成7年9月1日	阪神高速5号湾岸線の六甲アイランドから泉佐野間が全車線復旧し全面開通。
	平成7年10月6日	新港第2突堤Gバースが本格復旧、供用開始。
	平成7年10月30日	阪神・淡路復興委員会が最終報告で「上海・長江プロジェクト」を提言。
	平成7年11月13日	六甲アイランド緊急仮設棧橋埠頭（S-BC）が竣工、供用開始。（岸壁延長350m、水深-13m）
	平成7年12月22日	六甲アイランドフェリーバース（RF-2）が本格復旧、供用開始。RF-3は平成8年7月1日、RF-1は同年7月20日に本格復旧、供用開始。
	平成7年	この年、総取扱貨物量91,702,168トン、うち輸出貨物量13,509,600トン、輸入貨物量15,870,881トン。コンテナ貨物量21,130,337トン、1,150,884TEU。入港船舶総数70,184隻、うち外国航路船6,833隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 香港、2位 シンガポール港、3位 高雄港、4位 ロッテルダム港、5位 釜山、神戸港は23位]
1996年	平成8年1月11日	六甲アイランド緊急仮設棧橋埠頭RL-2Sが竣工、供用開始。（岸壁延長200m、水深-13m）
	平成8年2月1日	六甲アイランド緊急仮設棧橋埠頭RL-2E（岸壁延長300m、水深-13m）とS-BC東側岸壁（岸壁延長120m、水深-13m）が竣工、供用開始。
	平成8年3月4日	六甲アイランドコンテナバースRC-4/5にマースクラインの第V世代オーバーパナマックス型フルコンテナ船「REGINA MAERSK」（81,488 G/T、6,418TEU、全長318.24m、幅42.92m）初入港。
	平成8年3月20日	中突堤旅客ターミナル竣工。
	平成8年4月1日	神戸市港湾局は開発局と合併して神戸市港湾整備局に改称。
	平成8年4月15日	ポートアイランド2期の高規格コンテナバースPC-14/15（水深-15m）が竣工、供用開始。
	平成8年4月29日	六甲アイランドコンテナバースRC-6本格復旧。5月1日HRC-1、5月20日RC-5、6月1日HRC-3W、6月27日HRC-3S本格復旧。
	平成8年5月9日	神戸港復興推進協議会設立。神戸港復興対策連絡会議を解消。
	平成8年5月10日	ポートアイランドコンテナバースPC-1本格復旧。5月25日PC-5、6月24日PL-12、7月1日HPL-7、PL-9、PL-10、PL-13、7月13日PL-3が本格復旧。
	平成8年7月4日	神戸大橋の上下4車線が復旧し全面開通。
	平成8年7月20日	第1回「海の日」記念式典開催。国民の祝日となる。
	平成8年8月24日	港湾幹線道路（ハーバーハイウェイ）全線開通。
	平成8年9月18日	明石海峡大橋（全長3,910m）の橋桁がつながり、初渡りセレモニー実施。
	平成8年9月30日	阪神高速道路3号神戸線全面開通。
	平成8年11月1日	神戸市港湾整備局が神戸港施設利用手続きを簡素化。許可申請書22種類のFAXによる受付開始。
	平成8年	この年、総取扱貨物量135,519,654トン、うち輸出貨物量18,900,975トン、輸入貨物量23,262,189トン。コンテナ貨物量31,956,717トン、1,789,280TEU。入港船舶総数81,663隻、うち外国航路船8,880隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 香港、2位 シンガポール港、3位 高雄港、4位 ロッテルダム港、5位 釜山港、神戸港は14位]
1997年	平成9年1月17日	阪神・淡路大震災神戸市合同慰霊祭開催。神戸市民の犠牲者4,579人の冥福を祈る。
	平成9年1月28日	神戸港港湾審議会が新たに造成する六甲アイランド南（333ha）の一部に震災のガレキと廃棄物を受け入れることを承認。
	平成9年2月1日	新港第1突堤Q2、Rバース本格復旧。
	平成9年2月3日	上海・長江交易促進プロジェクトの第1船「FORTUNE RIVER」（4,635 G/T）就航。
	平成9年2月9日	ハーバーハイウェイと阪神高速道路5号湾岸線を結ぶ「住吉浜大橋」架設。
	平成9年2月19日	神戸空港の飛行場設置許可を運輸大臣から受ける。
	平成9年3月3日	「QUEEN ELIZABETH 2」（70,327 G/T）4年ぶり5回目の入港。

1997年

平成9年3月26日

高浜岸壁災害復旧工事完了。

平成9年3月31日

神戸港の主要港湾施設の復旧工事完了。

平成9年4月1日

突堤の名称を変更。兵庫突堤を「兵庫ふ頭」に、新港第5突堤から第8東突堤間を「新港東ふ頭」に改称、摩耶埠頭を加えた3か所でバース名を変更。

平成9年4月2日

神戸税関摩耶埠頭出張所竣工。

平成9年4月7日

摩耶第1～3突堤間埋め立て工事完了。

平成9年4月19日

捕鯨調査船「日新丸」新港第4突堤Q2バース入港。

平成9年4月20日

中突堤遊歩道（ポートタワー～中突堤旅客ターミナル間）供用開始。

平成9年4月23日

神戸港震災復旧工事竣工式典開催。（ホテルオークラ神戸）

平成9年4月28日

神戸海洋博物館の屋外展示物としてメリケンパークにTSL実験船「疾風」展示。

平成9年5月7日

神戸港利用促進協議会発足。

平成9年5月19日

神戸開港130年記念式典開催。神戸港復興を提唱しこれを採択。

国際港湾都市「神戸サミット」（5月19日～20日）を神戸国際会議場で開催。



TSL実験船「疾風」の海上実験



神戸開港130年記念式典

平成9年5月30日

クルーズ船「おせあにつくぐれいす」（5,218 G/T）最後の入港。

平成9年6月2日

イギリス王室ヨット「BRITANNIA」（5,769 G/T）初入港。

平成9年6月5日

運輸省航海訓練所の練習帆船「日本丸」（2,570 G/T）神戸沖で帆走披露。

平成9年6月9日

運輸省航海訓練所の練習船「青雲丸」（4,990 G/T）神戸港最後の船出。

平成9年7月15日

神戸港震災メモリアルパークオープン。

平成9年9月5日

神戸港・武漢港協力関係樹立に関する協議書に調印。

平成9年10月19日

世界最大のコンテナ船「SOVEREIGN MAERSK」（91,560 G/T、7,226TEU、全長346.98m、幅32.23m）初入港。

平成9年10月28日

運輸省航海訓練所の新造練習船「青雲丸」（5,884 G/T）初入港。兵庫第1～第2突堤間の埋め立て完了。

平成9年11月3日

新港第5～6突堤間の埋立完了。

平成9年12月5日

六甲アイランド南の埋立免許取得。

平成9年12月6日

海洋科学技術センターの海洋地球研究船「みらい」（8,687 G/T）初入港。

平成9年12月15日

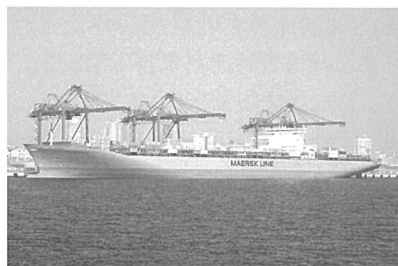
港湾幹線道路（ハーバーハイウェイ）の住吉浜渡り線開通。

平成9年

この年、総取扱貨物量147,770,812トン、うち輸出貨物量19,078,569トン、輸入貨物量22,832,227トン。コンテナ貨物量30,263,868トン、1,688,280TEU。入港船舶総数82,698隻、うち外国航路船8,874隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 香港、2位 シンガポール港、3位 高雄港、神戸港は18位]



神戸港震災メモリアルパーク



世界最大のコンテナ船
「SOVEREIGN MAERSK」初入港

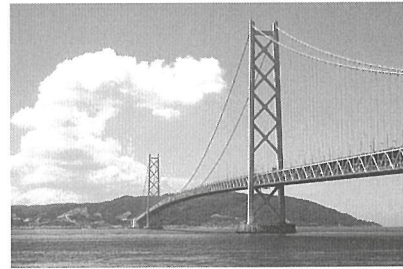


練習船新「青雲丸」初入港

⑨ポートアイランド2期の整備と港の再開発（1998年～2008年）



中突堤中央ターミナル（かもめりあ）



世界最長の吊り橋「明石海峡大橋」開通

1998年	平成10年 2月1日	港湾幹線道路（ハーバーハイウェイ）新港ランプ開設。
	平成10年 2月2日	六甲アイランド南の埋立工事着手。
	平成10年 2月16日	ポートアイランド2期のコンテナターミナルPC-16/17供用開始。
	平成10年 3月4日	内航コンテナフィーダー船の外貿バースへの直着け開始。
	平成10年 3月28日	日本初のアメニティターミナルとして、中突堤中央ターミナル（愛称=かもめりあ）供用開始。
	平成10年 4月1日	神戸市港湾整備局は上海にポートエージェント設置。
	平成10年 4月5日	世界最長の吊り橋「明石海峡大橋」開通。 日本クルーズ客船(株)「ぱしふいっくびいなす」(26,518 G/T) がポートターミナル初入港。



「ぱしふいっくびいなす」(26,518 G/T)就航



内航コンテナフィーダー船の
外貿バースへの直着け開始

	平成10年 4月9日	港湾職業能力開発短期大学神戸校開校。
	平成10年 6月1日	皇太子ご夫妻が神戸港震災メモリアルパーク御視察。
	平成10年 6月4日	長田港再開発埋立竣工。
	平成10年 6月11日	神戸港と武漢港、技術交流事業覚書調印。
	平成10年 7月1日	神戸港の強制水先対象船舶基準を300トンから1万トン以上に緩和。神戸港の初入港船に対する入港料・岸壁使用料免除を開始。インターネット上に神戸港のホームページ開設。
	平成10年 7月15日	新港第6～8突堤間の埋め立て完了。
	平成10年 9月20日	「P&O NEDLLOYD KOBE」(80,942 G/T、6,930TEU) の命名式を新港第4突堤で開催。
	平成10年11月19日	海洋科学技術センターの深海調査研究船「かいいい」(4,628 G/T) 初入港。
	平成10年11月26日	神戸税関の新庁舎完工。
	平成10年12月10日	神戸・長江経済貿易連絡事務所開設。
	平成10年	この年、総取扱貨物量100,048,309トン、うち輸出貨物量18,304,256トン、輸入貨物量20,637,188トン。コンテナ貨物量28,703,430トン、1,628,498TEU。入港船舶総数55,226隻、うち外国航路船8,385隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 シンガポール港、2位 香港、3位 高雄港、4位 ロッテルダム港、5位 釜山港、神戸港は16位]
1999年	平成11年 3月3日	ポートアイランド南埠頭に神戸港国際流通センター（K-DIC）稼働。
	平成11年 3月16日	新港フェリーターミナルが完成、ジャンボフェリー(株)供用開始。
	平成11年 3月31日	摩耶ふ頭D上屋、新港東V上屋、兵庫ふ頭H上屋供用開始。

1999年	平成11年 7月30日	港島トンネル開通。
	平成11年 9月13日	神戸空港の埋立工事着工。
	平成11年 9月28日	中突堤旅客ターミナルに大型クルーズ船「飛鳥」(28,856 G/T) が初めて着岸。
	平成11年10月 1日	神戸港港湾管理者EDIシステム稼働。
	平成11年10月12日	新Sea-NACCS、港湾EDIシステム稼働。
	平成11年12月 5日	運輸省航海訓練所の練習帆船「日本丸」(2,570 G/T) が神戸入港30回記念でセイルドリル披露。
	平成11年	この年、総取扱貨物量82,777,429トン、うち輸出貨物量17,524,630トン、輸入貨物量21,331,096トン。コンテナ貨物量29,438,483トン、1,675,237TEU。入港船舶総数44,075隻、うち外国航路船8,169隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 香港、2位 シンガポール港、3位 高雄港、4位 釜山港、5位 ロッテルダム港、神戸港は19位]



皇太子御夫妻が神戸港震災メモリアルパークを御視察



神戸港国際流通センター(K-DIC)



港島トンネル開通

2000年	平成12年 3月10日	スタークルーズの「SuperStar TAURUS」(25,611 G/T) が日韓定期クルーズ開始。
	平成12年 4月12日	第16回姉妹港セミナーを神戸港で開催。(～14日まで)
	平成12年 6月 3日	メリケンパークのフィッシュダンス音楽練習場オープン。
	平成12年 7月27日	21世紀神戸空港活用促進協議会発足。
	平成12年 9月20日	神戸21世紀復興記念事業「KOBE 2001 みなとフェスタ」実行委員会発足。
	平成12年 9月26日	南極観測船「しらせ」(17,600排水トン) 7年ぶり入港。
	平成12年10月12日	(株)五島産業汽船が阪神～小豆島～高松航路開設。
	平成12年10月17日	中国の朱鎔基首相がポートアイランド2期コンテナターミナルPC-16/17を視察。(中国船社: COSCOターミナル)
	平成12年10月23日	青木フェリーセンター跡地にサンシャインワーフグランドオープン。
	平成12年	この年、総取扱貨物量84,640,377トン、うち輸出貨物量17,670,636トン、輸入貨物量23,352,251トン。コンテナ貨物量32,159,099トン、1,772,730TEU。入港船舶総数46,570隻、うち外国航路船8,264隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 香港、2位 シンガポール港、3位 釜山港、4位 高雄港、5位 ロッテルダム港、神戸港は22位]



「SuperStar TAURUS」(25,611 G/T)



サンシャインワーフ

2001年	平成13年 1月17日	神戸21世紀復興記念事業「KOBE 2001 みなとフェスタ」開幕。(～9月30日)
	平成13年 2月21日	メリケンパーク協議会発足。
	平成13年 3月 1日	クルーズ船「クイーンエリザベス 2」(70,327 G/T) 4年ぶり6回目の入港。
	平成13年 3月25日	神戸ポートタワーリニューアルオープン。
	平成13年 4月 1日	神戸市港湾整備局の東部、新港、摩耶管理事務所を神戸港管理事務所に統合。

2001年	平成13年 4月12日	気象庁の海洋気象観測船「啓風丸」が神戸港を母港に配属。
	平成13年 4月14日	ポートアイランド北埠頭に日産自動車が進出、車両センターオープン。
	平成13年 4月23日	天皇、皇后両陛下がポートアイランドコンテナターミナルPC-16／17御視察。
	平成13年 4月28日	メリケンパークに神戸港移民船乗船記念碑設置。
	平成13年 5月5日	神戸21世紀復興記念事業で、独立行政法人航海訓練所の練習帆船「日本丸」「海王丸」がルーズセイルで新港第1突堤西岸壁に同時入港、セイルドリル披露。
	平成13年 5月20日	HAT神戸のなぎさ公園供用開始。
	平成13年 5月28日	関西汽船別府航路開設90周年記念セレモニー開催。
	平成13年 5月31日	神戸市港湾整備局、神戸港メールマガジン発行。
	平成13年 6月12日	神戸港IT調査研究会発足。
	平成13年 7月7日	神戸市営地下鉄「海岸線」開通。
	平成13年 7月26日	神戸21世紀復興記念事業で汽笛時計を中突堤西地区に設置。
	平成13年 8月4日	神戸21世紀復興記念事業で神戸シップパレード実施（～5日まで）。
	平成13年11月1日	摩耶大橋・港湾幹線道路の大型車通行料値下げ。
2002年	平成13年	この年、総取扱貨物量は79,638,533トン、うち輸出貨物量15,748,769トン、輸入貨物量22,069,987トン。コンテナ貨物量28,728,167トン、1,556,531TEU。入港船舶総数47,940隻、うち外国航路船8,052隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 香港、2位 シンガポール港、3位 釜山港、4位 高雄港、5位 上海港、神戸港は27位]
	平成14年 1月2日	神戸港で364日港湾荷役開始。
	平成14年 1月28日	港湾EDIとSea-NACCSの連携運用開始。
	平成14年 2月7日	神戸港K-CATと関西国際空港を結ぶK-JET航路廃止。
	平成14年 3月1日	ポートアイランド2期に新設された神戸税関のコンテナX線検査システム稼働。
	平成14年 4月1日	神戸市港湾整備局が「神戸市みなと総局」に改称。
	平成14年 4月2日	神戸港ポートセールスチーム発足。
	平成14年 4月30日	神戸港がリサイクルポートの指定を受ける。



天皇、皇后両陛下が
コンテナターミナルを御視察



神戸21世紀復興記念事業で
「日本丸」「海王丸」セイルドリル

平成14年 6月5日	FIFAワールドカップ2002 予選リーグを神戸で3試合開催。 6月17日にはブラジル vs ベルギーの決勝トーナメント開催。
平成14年 7月1日	神戸海運監理部が「神戸運輸監理部」に改称。 ポートアイランド2期のPC-13ターミナル（APL）開業。
平成14年 7月15日	ポートアイランドのPC-1～5ターミナルの移転完了。
平成14年 7月20日	第1回 Kobe Love Port みなとまつり2002 開催。（～21日）
平成14年 8月1日	神戸港の航路変更。第1航路は神戸西航路、第2航路は廃止、第3航路は神戸中央航路となる。
平成14年10月15日	神戸税関が夜間・休日通関を試行実施。 神戸港の夜間入港の水先基準を緩和。500総トン～1万総トン未満の夜間入港船に対して、過去1年間に2回以上入港経験のある船長が乗船する船舶は水先人の乗船を不要とした。 国際港湾協会常任理事会、国際港湾会議50周年記念シンポジウムを神戸で開催。（～18日まで）
平成14年12月26日	神戸空港ターミナル㈱設立。

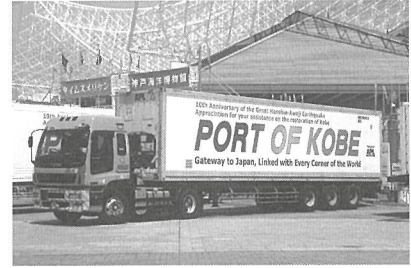
2002年	平成14年	この年、総取扱貨物量78,601,295トン、うち輸出貨物量16,466,349トン、輸入貨物量21,167,491トン。コンテナ貨物量27,554,636トン、1,528,595TEU。入港船舶総数41,215隻、うち外国航路船7,658隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 香港、2位 シンガポール港、3位 釜山港、4位 上海港、5位 高雄港、神戸港は29位]
2003年	平成15年 4月16日 平成15年 4月21日 平成15年 6月7日 平成15年 7月1日 平成15年 7月19日 平成15年 9月1日 平成15年10月1日 平成15年11月30日 平成15年12月1日 平成15年	ポートアイランド2期のコンテナターミナルPC-18完成。 神戸港が国際みなと経済特区に認定。 ポートアイランド2期のコンテナターミナルPC-18(上組)の竣工・供用披露式開催。(東側岸壁は未完) 神戸税関は通関手続を平日夜間21時まで、日曜・休日は8時30分から17時まで開設。 第2回「海フェスタ」KOBÉ～海の祭典 2003～開催。(～26日まで) 第2回「海フェスタ」イベントで、独立行政法人航海訓練所の練習帆船「海王丸」(2,556 G/T) 神戸沖帆走披露。 神戸税関は到着即時輸入許可制度導入。 神戸商船大学、神戸大学に統合され海事科学部としてスタート。 JR貨物「神戸港駅」閉鎖。(96年の歴史) JR貨物「神戸貨物ターミナル駅」鷹取に開業。 この年、総取扱貨物量78,758,994トン、うち輸出貨物量16,897,155トン、輸入貨物量21,203,814トン。コンテナ貨物量27,377,995トン、1,524,152TEU。入港船舶総数39,905隻、うち外国航路船7,887隻。[コンテナ取扱個数は、世界1位 香港、2位 シンガポール港、3位 上海港、4位 深セン港、5位 釜山港、神戸港は32位]
2004年	平成16年 1月28日 平成16年 2月11日 平成16年 3月15日 平成16年 3月20日 平成16年 4月1日 平成16年 4月5日 平成16年 4月19日 平成16年 6月21日 平成16年 6月30日 平成16年 7月1日 平成16年 7月23日 平成16年 7月27日 平成16年 8月30日 平成16年 9月7日 平成16年10月1日 平成16年10月23日 平成16年	神戸港保安委員会設置。 クリスタルクルーズの最大船「CRYSTAL SERENITY」(68,870 G/T) 初入港。 神戸港新生プロジェクト発足。 ハーバーランド「モザイク」二階への弁天歩道橋完成。 六甲アイランドのRC-3、4、5ターミナルを川崎汽船とマースクが共同借受。 (株)神戸製鋼所灘浜工場に「灘浜サイエンス」オープン。 スーパー中枢港湾の指定に向け阪神港広域連携協議会発足。 神戸港から台湾新幹線の輸出開始。(～11月1日) 改正SOLAS条約に備えて神戸港保安対策協議会設置。 神戸メガコンテナターミナル(株)設立。 改正SOLAS条約の批准により神戸港の保安対策強化。 動物検疫所神戸支所、神戸植物防疫所がコンテナ貨物の土曜開庁を実施。 阪神港がスーパー中枢港湾の指定を受ける。 「みなと神戸いきいきプラン検討会」設置。 台風16号神戸港に襲来、神戸港各所で冠水。 神戸空港旅客ターミナルビル着工。 中突堤に神戸港観光センター「波止場町五番館」オープン。 神戸海洋博物館一時休館(～平成17年4月20日) 神戸ポートタワーで第1回ピンクリボンキャンペーン。 この年、総取扱貨物量85,660,627トン、うち輸出貨物量18,790,052トン、輸入貨物量24,450,734トン。コンテナ貨物量30,823,195トン、1,618,091TEU。入港船舶総数39,266隻、うち外国航路船7,738隻。
2005年	平成17年1月13日 平成17年 2月7日 平成17年 2月25日 平成17年 3月1日 平成17年 4月6日 平成17年 4月21日 平成17年 5月19日	プラント運搬船で輸入された世界最大級の飛行船「ツェッペリンNT」を神戸港で陸揚げ。 震災10年神戸からの発信事業「みなとの実行委員会」設立。 「みなと神戸 いきいきプラン」公表。 神戸税関六甲アイランドコンテナ検査センター供用開始。 ホルスト・ケーラードイツ大統領が神戸港震災メモリアルパーク視察。 震災10年神戸からの発信「神戸港事業」スタート。(～8月31日) 震災10年神戸港の集い「記念コンテナ」出発式開催。NYK、MOL、K-Line、MAERSK LINE、APL、WAN HAI LINE、CHINA EXPRESS LINEの協力を得て復興した神戸港から世界の港に向けてオリジナルデザインのコンテナを船積み。



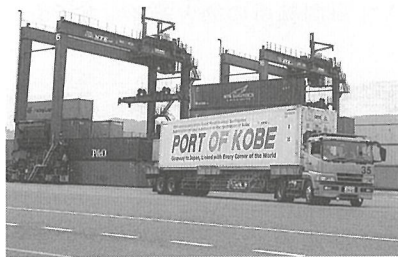
震災10年神戸からの発信事業
みなとの行事スタート



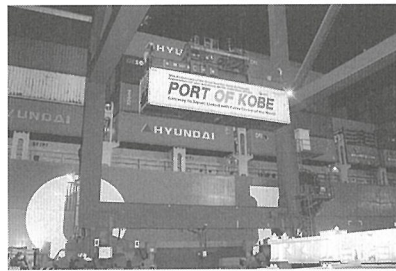
「記念コンテナ」出発式



APL



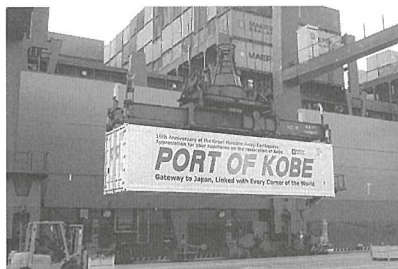
NYK



MOL



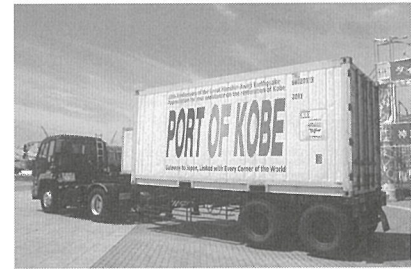
K-Line



MAERSK LINE



WAN HAI LINE



CHINA EXPRESS LINE

2005年	平成17年 6月4日	震災10年神戸からの発信事業みなとの行事として、神戸港第1区で船艇イルミネーションパレード実施。(～5日)
	平成17年 7月4日	神戸港が指定特定重要港湾の指定を受ける。
	平成17年 7月11日	世界最大級のコンテナ船「GUDRUN MAERSK」(97,933 G/T、7,000TEU) 初入港。
	平成17年 9月12日	須磨ベルトコンベアが41年の歴史に終止符。
	平成17年 9月12日	神戸空港に1番機が着陸。(検査用飛行機)
	平成17年 9月15日	関西汽船の別府航路が中突堤から新港第4突堤O1バースに移転。(H20.1.16 六甲アイランドに再移転)
	平成17年11月1日	神戸港の夜間入港規制撤廃。
	平成17年11月30日	京橋地区の防潮胸壁竣工。
	平成17年	この年、総取扱貨物量91,181,768トン、うち輸出貨物量20,054,755トン、輸入貨物量25,648,173トン。コンテナ貨物量32,015,222トン、1,662,206TEU。入港船舶総数38,856隻、うち外国航路船7,843隻。
		中突堤旅客ターミナルがCIQ施設を備えた外航クルーズターミナルにリニューアルオープン。
2006年	平成18年 1月11日	ポートライナーが神戸空港まで延伸、開業。神戸空港連絡橋(神戸スカイブリッジ)供用開始。
	平成18年 2月2日	神戸空港開港記念式典を神戸ポートピアホテルで開催。
	平成18年 2月12日	神戸空港開港。
	平成18年 2月16日	国産上屋1階に文化交流施設の波止場町TEN×TENオープン。(平成30年2月26日撤退)
	平成18年 2月23日	中突堤旅客ターミナルに「飛鳥II」(50,142 G/T) 初入港。

2006年	平成18年 3月6日	クルーズ船「QUEEN ELIZABETH 2」(70,327 G/T) 最後の入港。
	平成18年 4月1日	神戸市みなと総局が船舶入港情報のリアルタイム化実施。
	平成18年 4月7日	世界初の分譲マンションシップ「The WORLD」(43,524 G/T) が中突堤旅客ターミナルに初入港。
	平成18年 5月17日	神戸海洋博物館内に川崎重工業㈱の企業ミュージアム「カワサキワールド」がオープン。
	平成18年 6月8日	独立行政法人海洋研究開発機構の地球深部探査船「ちきゅう」(57,087 G/T) 初入港、市民7千人が見学。(～6月14日)
	平成18年 7月13日	海上アクセス㈱の神戸-関空ベイ・シャトル就航。
	平成18年 9月30日	兵庫県で第61回国民体育大会開催。(～10月10日)
	平成18年10月8日	世界最大級のオーバーパナマックス型フルコンテナ船「EMMA MAERSK」(170,794 G/T、11,000TEU) が六甲アイランドコンテナターミナルに初入港。
	平成18年10月16日	(財)神戸港埠頭公社が神戸港上海事務所を開設。
	平成18年11月12日	韓国海洋大学の新造練習船「HANBADA」(6,888 G/T) 初入港。
	平成18年11月22日	神戸メリケンパークオリエンタルホテル東側壁面に神戸港開港140年のライトアップ点灯。
	平成18年	この年、総取扱貨物量95,499,009トン、うち輸出貨物量21,928,736トン、輸入貨物量26,755,465トン。コンテナ貨物量37,430,931トン、2,412,767TEU。入港船舶総数39,690隻、うち外国航路船8,382隻。



神戸空港マリンエア開港



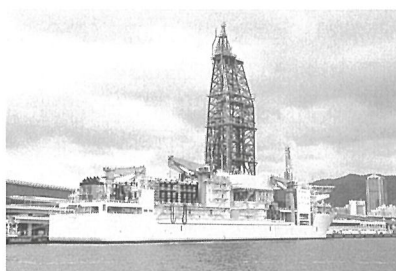
「飛鳥II」(50,142 G/T)



「QUEEN ELIZABETH 2」(70,327 G/T)



「The WORLD」(43,524 G/T)



「ちきゅう」(57,087 G/T)



「EMMA MAERSK」(170,794 G/T)

2007年	平成19年 1月24日	「開港140年神戸港に感謝する会」(名誉会長=尾崎睦) 発会式開催。
	平成19年 1月25日	ジャンボフェリーを使った船旅の魅力体験ツアー「おもしろふねの旅」で航行中の船上デッキから凧揚げ大会を実施。
	平成19年 1月30日	第12回環太平洋友好港会議を神戸で開催。(～31日)
	平成19年 2月15日	ポートターミナルに停泊中の練習船「青雲丸」をクルーズ船に見立てて神戸港テロ対策合同実動訓練を実施。
	平成19年 3月12日	PC-3跡地に神戸夙川学院大学、兵庫医療大学竣工。
	平成19年 3月30日	ポートアイランドのPC-1/2跡地に神戸学院大学ポートアイランドキャンパス竣工。
	平成19年 4月1日	ポートアイランド西側緑地公園オープン。同西側岸壁とかもめりあ間を港内遊覧船「ヴィラジオ・イタリア」(171 G/T) 運航開始。翌2日、「ファンタジー」(152 G/T) も寄港開始。

2007年	平成19年 4月6日	22年ぶりの「神戸国際ポートショー 2007」を神戸国際展示場で開催。
	平成19年 4月18日	南カリフォルニア日米協会国際市民賞を神戸港が受賞。ロサンゼルスでアーノルド・シュワルツェネッガー州知事による授賞式。
	平成19年 5月17日	アメリカのカリフォルニア州立マリタイムアカデミーの新たな練習船「GOLDEN BEAR」(12,517 G/T) がポートターミナルに初入港。
	平成19年 5月21日	シアトル市姉妹都市50周年、シアトル港姉妹港40周年記念式典を相楽園会館で開催。
	平成19年 6月8日	ポートアイランド西緑地を市民公募により「ボーアイしおさい公園」と命名。岸壁に航海訓練所の練習船「大成丸」(5,888 G/T)、「銀河丸」(6,185 G/T) 練習帆船「海王丸」(2,556 G/T) の3隻を迎え、PI-U/V岸壁への船の初着岸歓迎式と公園の竣工命名式を挙行。
	平成19年 7月14日	「神戸開港140年記念式典」「Kobe Love Portみなとまつり2007」をメリケンパークで3日間にわたって開催。初日は季節外れの台風により中止。16日には神戸港ポート天国や兵庫県港運協会による「海の日スペシャル」等のイベントが行われ、杉良太郎・伍代夏子コンサートには1万人の市民を無料招待。
	平成19年 7月20日	フルコンテナ船「OOCL KOBE」(40,168 G/T、4,578TEU) の命名式を神戸ポートターミナルQ2岸壁で開催。
	平成19年 8月28日	神戸とロシア(ウラジオストック) 航路に就航する国際フェリー「SUN RISE」(12,023 G/T) が新港第4突堤にトライアル入港。
	平成19年 9月8日	神戸海洋博物館の入館者数が500万人を達成。 神戸・天津友好の翼と銘打って、チャーター機で神戸空港から天津までの初めての国際便が出発。9月10日に帰国便到着。
	平成19年 9月15日	世界華商大会、神戸で開催。(～17日)
	平成19年 9月17日	中国(上海市、天津市)に海外ポートセールスミッションを派遣。上海市では「神戸倶楽部」設立総会開催。(～21日)
	平成19年 9月22日	神戸海洋博物館でカワサキワールド秋の大イベントとして、西日本最大級の「鉄道模型走行会」を初開催。鉄道模型1,500両が勢ぞろい。
	平成19年10月1日	神戸市の中心部に位置するウォーターフロントエリア約240haを条例で定める「都市景観形成地域」に指定。
	平成19年10月6日	「AMSTERDAM」(62,735 G/T) の初入港に合わせて「神戸開港140年記念客船フェスタ2007」(～10月8日)を神戸ポートターミナルで開催。期間中5,300人が訪れた。
	平成19年10月6日	第1回「神戸ビエンナーレ 2007」(総合芸術祭)をメリケンパークで開催。(～11月25日) 期間中144,000人が訪れた。
	平成19年10月8日	シアトルでの姉妹都市50周年、姉妹港40周年記念式典にミッション派遣。(～14日)
	平成19年10月17日	神戸海洋博物館で「神戸港コンテナ船就航40周年記念シンポジウム」開催。
	平成19年10月19日	日本で初めての海陸両用観光船によるダックツアーが営業開始。
	平成19年11月21日	関西汽船㈱の「さんふらわあ ごーと」(11,380 G/T) 就航。
	平成19年11月23日	「Kobe帆船フェスタ2007」を新港第1突堤で開催。航海訓練所の練習帆船「日本丸」(2,570 G/T)、「海王丸」(2,556 G/T) の体験航海、ルーズセイルによる同時入港、セイルドリル、船内一般公開、海洋教室等を実施。(～25日) 期間中115,000人が訪れた。
	平成19年12月1日	大阪湾諸港の一開港化施行。神戸港、尼崎・西宮・芦屋港、大阪港、堺泉北港が阪神港となる。



「ボーアイしおさい公園」命名
岸壁に航海訓練所の練習船3隻が初着岸



神戸開港140年記念式典、
海の日スペシャル

2007年	平成19年12月6日	第13回「神戸ルミナリエ」開催。期間中4,043,000人が訪れた。(～17日)
	平成19年12月26日	「みなと神戸の経済調査」報告発表。
	平成19年12月28日	神戸ポートターミナルにクルーズ客船「ふじ丸」が入港。年間のクルーズ客船入港隻数が100隻となる。
2008年	平成20年1月15日	関西汽船㈱の第4突堤入港が最終日となり、16日から六甲アイランドRF-1に移転。
	平成20年3月17日	神戸海上新都心土地区画整理事業完成式（ボーアイしおさい公園）举行。
	平成20年4月1日	「須磨海岸を守り育てる条例」を制定。海岸の良好な環境を保つため、騒音や花火を規制し、バーベキュー等を禁止。
	平成20年4月13日	セラヴィ観光汽船㈱の小豆島航路が廃止。
	平成20年4月25日	クルーズ客船としては総トン数で過去最大となる「Rhapsody of the Seas」(78,491 G/T)が初入港。
	平成20年4月28日	日伯交流年・ブラジル移住100周年記念式典開催。(27・28日) 皇太子殿下が、神戸市港務艇「おおわだ2」でご視察。
	平成20年5月24日	ポートアイランドを主会場にG8環境大臣会合開催。(～26日) 中突堤で「海王丸こうべ環境フェスタ」を開催。(～25日)
	平成20年7月3日	神戸空港来場者1,000万人突破。(開港から2年5か月で達成)
	平成20年7月16日	神戸経済同友会主催「ばしふいっくびいなす」(26,594 G/T) による「せとうち・感動体験クルーズ」が出港。
	平成20年9月2日	㈱神戸港振興協会設立50周年。6月28日に「KOBÉ帆船フェスタ2008 ～ふね・ふね大集合 in 神戸港～」を開催、13,000人が参加。7月20日に神戸ポートタワーのマスコット「キャプテン タワー君」デビュー。
	平成20年11月1日	中突堤西地区に「ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランド」が開業。
	平成20年11月11日	神戸海事地域人材確保連携協議会が市内小中学生向けの副教材「海とみなとが仕事の舞台～神戸港～」を発行。
	平成20年11月23日	神戸空港島に大型結婚式場「ラヴィマーナ神戸」が開業。
平成20年		この年、総取扱貨物量 95,185,517トン、うち輸出貨物量 23,728,113トン、輸入貨物量 26,251,958トン、コンテナ取扱量 38,173,397トン、2,558,107TEU。入港船舶数41,438隻、うち外国航路船8,171隻。[コンテナ取扱個数は、世界44位] クルーズ客船入港隻数97隻。



「Rhapsody of the Seas」(78,491 G/T)



日伯交流年
ブラジル移住100周年記念式典

⑩国際コンテナ戦略港湾施策の推進（2009年～現在）

2009年	平成21年2月15日	地球深部探査船「ちきゅう」(56,752 G/T) をRC-1で一般公開。9,312人が見学。
	平成21年2月27日	神戸港に臨港型大型物流センターが相次いで完成。2月27日イヌイ建物㈱「神戸みなと倉庫」。7月1日澁澤倉庫㈱「港島倉庫」。
	平成21年5月3日	阪九フェリー㈱の「やまと」(13,353 G/T) による「せとうち明石海峡市民クルーズ」を実施。633人が参加。
	平成21年5月17日	新型インフルエンザの流行で、神戸まつりメインフェスティバルが中止。(同年7月19日に延期開催)
	平成21年7月8日	神戸空港に学校法人ヒラタ学園が進出。
	平成21年7月17日	「みなと神戸元気アップ！キャンペーン」を実施し、期間中に1,120,468人が神戸を訪れた。新型インフルエンザによる風評被害を払拭、神戸の元気を発信。(～9月27日)

2009年	平成21年 7月17日	高速道路料金引き下げの影響のため、神戸港瀬戸内フェリー活性化協議会を結成し、神戸港発着の内航フェリー活性化に官民共同で取り組む。
	平成21年 8月1日	第39回みなとこうべ海上花火大会の花火打ち上げ数を6,200発から1万発に拡大。
	平成21年 8月3日	みなと神戸の夜空を彩る「神戸スウィング・オブ・ライツ」を実施し、ハーバーランドのMOSAICから246,000人が観賞。(～23日)
	平成21年 8月31日	滋賀県彦根市において国内荷主企業・関係団体等に対して神戸港の現況及び利用促進に向けた取り組みの説明会を開催。11月17日には神戸市内において瀬戸内・九州貨物創出企業を対象に開催。
	平成21年 9月26日	世界初の分譲マンションシップ「The WORLD」(43,188 G/T)が中突堤旅客ターミナルに2回目の入港。
	平成21年10月20日	神戸市民クルーズとして、日本クルーズ客船㈱による「秋の瀬戸内海・小豆島ワンナイトクルーズ」を実施。
	平成21年10月26日	国土交通省成長戦略会議の課題の一つ「海洋国家日本の復権」の一環として、大型化が進むコンテナ船に対応し、アジア主要国と遜色のないコスト・サービスの実現を目指すため、「選択」「集中」に基づいた『国際コンテナ戦略港湾』の選定を行う方針が打ち出された。
	平成21年10月30日	神戸空港発着便搭乗者1,000万人達成。
	平成21年12月16日	神戸空港島に㈱上組神戸空港島ロジスティックセンター竣工。5階建 延床面積27,336㎡。
	平成21年	この年、総取扱貨物量 77,027,010トン、うち輸出貨物量 19,326,815トン、輸入貨物量 23,861,581トン、コンテナ取扱量 33,921,333トン、2,247,024TEU。入港船舶数 36,482隻、うち外国航路船 7,525隻。[コンテナ取扱個数は、世界46位] クルーズ客船入港隻数 100隻。
2010年	平成22年 1月11日	六甲アイランドRC-6/7に日本郵船㈱のオーバーパナマックス型コンテナ船「NYK VENUS」(97,825 G/T、9,016TEU) が初入港。
	平成22年 1月17日	神戸震災復興記念公園「みなとのもり公園」オープンセレモニー開催。1,200人が参加。
	平成22年 2月2日	阪神国際コンテナ戦略港湾検討委員会発足。
	平成22年 3月8日	神戸～ナホトカ航路「PRIMORYE MARU」引退セレモニーをPC-18で実施。
	平成22年 3月31日	第1回神戸海事広報大使任命。
	平成22年 4月1日	「PC-18」大水深化・耐震化完了。国内で最も深い水深16メートル岸壁が供用を開始し、ハンブルグ・スドのフルコンテナ船「CAP CAPRICORN」(42,814 G/T、3,765TEU) が初入港。新設された超大型ガントリークレーンで荷役。
	平成22年 4月6日	神戸市と韓国仁川市が姉妹都市提携調印。
	平成22年 4月16日	神戸空港開港から5年目を迎え、日本航空が神戸空港から撤退したが、新規路線の就航や増便が相次ぐ。4月16日茨城線の新規就航、9月1日鹿児島線の新規就航、12月16日長崎線の新規就航。
	平成22年 4月28日	(社)神戸港振興協会の設立50周年を記念し神戸ポートタワーをリニューアルオープン。建設後初めての全面剥離再塗装が施され、LEDを使用したライトアップ設備を新設。11月9日には来場者数2,200万人目を達成。
	平成22年 7月17日	「神戸ブラージュ2010」開催。(～8月31日) 新港第1突堤を会場に3,000㎡の人工の砂浜を整備。期間中93,500人が訪れた。
	平成22年 8月6日	阪神港が、京浜港とともに、「国際コンテナ戦略港湾」に選定される。
	平成22年10月5日	外貿埠頭並びにフェリー埠頭等の建設、賃貸及び管理経営を総合的かつ効率的に行うこと等を目的に「神戸港埠頭㈱」を設立。
	平成22年	この年、総取扱貨物量 85,532,493トン、うち輸出貨物量 22,400,264トン、輸入貨物量 25,389,254トン、コンテナ取扱量 38,627,304トン、2,556,291TEU。入港船舶数37,910隻、うち外国航路船 7,568隻。[コンテナ取扱個数は、世界47位] 震災後最高となる103隻のクルーズ客船が神戸港に入港。



PC-18 大水深化耐震化完了



阪神港 国際コンテナ戦略港湾に選定



神戸プラージュ

2011年	平成23年 2月16日	神戸空港開港から5周年を迎える。神戸市総合防災訓練の実働訓練として、10月30日広域医療搬送に重点を置いた実践的な訓練を実施、11月30日スカイマーク社格納庫竣工、12月1日ユーロコプタージャパンT&E社（現エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン(株)）格納庫竣工、12月14日神戸空港発着便搭乗者が1,500万人を達成。
	平成23年 3月11日	午後2時46分、東日本大震災（マグニチュード8.8、震度7強）が発生。被災地支援へ様々な取り組みを開始。同日、支援活動要員のヘリコプターによる派遣、輸送機や給油の中継基地として神戸空港を活用。3月18日震災関連での神戸港の港湾施設使用料等特別減免。4月12日、5月30日、9月27日、12月5日被災した港湾への支援（救援物資の輸送）。
	平成23年 4月1日	国際コンテナ戦略港湾として様々な施策に取り組む。7月20日神戸港内航フィーダー利用促進事業補助金交付対象事業の決定、9月7日ソウル市内において「仁川港・神戸港間の航路利用促進セミナー」を開催、10月27日大阪市内で「阪神港セミナー」を開催、11月9日宮崎市内において「神戸・宮崎間の海上物流促進セミナー」を開催、12月7日平成23年度神戸港コンテナ貨物集荷促進事業補助金交付対象事業の決定。
	平成23年 4月1日	「須磨海岸を守り育てる条例」を一部改正。指定場所以外での喫煙禁止、入れ墨等他人に不安・嫌悪を覚えさせ、海岸の利用を妨げる行為の禁止を追加。
	平成23年 5月16日	国内最大級バージ型内航コンテナ船の運航開始。 阪神・瀬戸内に拠点を持つ港運会社7社により設立された「西日本内航フィーダー合同会社」が、内航船としては国内最大級の積載能力を持つ「エメラルド」（3,129 G/T、314TEU）の運航を始めた。また、12月7日、同型の「サファイア」（2,361 G/T、334TEU）も就航した。
	平成23年 7月2日	神戸港港島トンネル南側延伸部の供用開始。 平成11年7月に供用開始した港島トンネルのポートアイランド側出入口での交通渋滞を緩和するため、上下各2車線の新たな出入口を南側に整備。
	平成23年 7月6日	ジャンボフェリー(株)による神戸～小豆島間にフェリー新規航路寄港開始。神戸と小豆島が所要時間約3時間で直接フェリー航路により結ばれる。
	平成23年 9月23日	南極観測船「しらせ」（2代目、12,650排水トン）が神戸港に初入港。9月24・25日の一般公開に7,463人が参加。
	平成23年	この年、総取扱貨物量 87,017,317トン、うち輸出貨物量 22,195,875トン、輸入貨物量 27,097,299トン、コンテナ取扱量 39,717,803トン、2,626,481TEU。入港船舶数36,638隻、うち外国航路船7,259隻。[コンテナ取扱個数は、世界48位] この年も100隻のクルーズ客船が神戸港に入港。

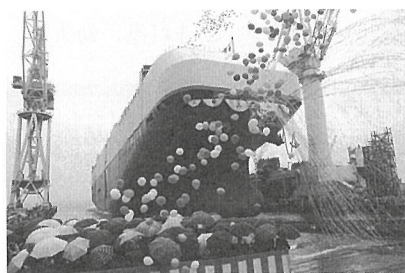


東日本大震災支援活動員を神戸空港より派遣



国内最大級バージ型内航コンテナ船
「エメラルド」運航

2012年	平成24年 1月21日	NHK大河ドラマ「平清盛」にあわせ「KOBÉ de 清盛2012」を開催（～翌1月14日）。みなとの取り組みとして、神戸海洋博物館にて平清盛展示コーナー「清盛の軌跡～国際港都に馳せた夢～」を開催したほか、レストランシップや港内クルーズと連携したサービスを展開。
	平成24年 2月16日	日中国交正常化40周年記念事業として「神戸ルネッサンス2012」を上海市で開催（～18日）、4月2日上海海事大学・神戸大学の学生交流会を開催。
	平成24年 3月	G6アライアンスサービス開始（Hapag-Lloyd、OOCL、日本郵船㈱からなるグランドアライアンスとAPL、Hyundai、㈱商船三井からなるニューワールドアライアンスが結成したアライアンス）。
	平成24年 3月9日	三菱重工業㈱神戸造船所で最後の商船建造となった1,296番目の大型自動車運搬船「EMERALD ACE」（60,200 G/T、6400台積み）の進水式挙行。6,500人が見学。
	平成24年 3月9日	「国際コンテナ戦略港湾」として様々な施策に取り組む。阪神港（神戸港・大阪港）を含む関西イノベーション国際戦略総合特区の第1次総合特別区域計画が認定。9月3日「阪神港セミナー 2012 in Tokyo」を東京都内にて開催、11月15日「港湾利用促進セミナー」を富山市内にて開催。
	平成24年 4月17日	神戸空港のユーロコプタージャパン㈱が操業開始。
	平成24年 6月3日	神戸－関空ベイ・シャトル200万人達成。
	平成24年 7月4日	チャイナエクスプレスライン㈱の「燕京」（9,960 G/T、161TEU）が神戸発～天津行き最終航海。8月20日に航路廃止。
	平成24年 7月9日	神戸港過去最大のクルーズ客船「Voyager of the Seas」（137,276 G/T）が合計4回入港〔7月9日、8月6日、8月20日、9月13日〕。4回で20,961人の船客及び乗組員が来神。
	平成24年 8月25日	第1回「～夏の終わりの『神戸港夏物語』2012～ KOBÉ MUSIC & GOURMET PORT」開催。（～26日） 神戸開港150年までプレイベントとして5年連続開催。
	平成24年 9月29日	かもめりあ東用地に「ノートルダム神戸」がグランドオープン。
	平成24年10月8日	神戸海洋博物館の入館者数が600万人を達成。
	平成24年10月17日	神戸・大阪両港埠頭㈱が、国内で初めて港湾法における特例港湾運営会社に指定。行政財産（国有港湾施設、港湾管理者が所有する港湾施設）の貸付を受け、コンテナターミナル全体の一体運用が可能となる。
	平成24年	この年、総取扱貨物量 87,205,107トン、うち輸出貨物量 22,241,334トン、輸入貨物量 26,787,874トン、コンテナ取扱量 38,464,621トン、2,567,540TEU。入港船舶数36,007隻、うち外国航路船7,144隻。〔コンテナ取扱個数は、世界52位〕 クルーズ客船入港隻数110隻。



三菱重工業株式会社神戸造船所での最後の商船建造「EMERALD ACE」



「Voyager of the Seas」（137,276 G/T）

2013年	平成25年 1 月13日	神戸水上警察署が海岸通からポートアイランド北公園の新庁舎に移転。
	平成25年 2 月16日	神戸空港開港から7周年を迎え「Love Airport」を開催。 航空会社も、全日本空輸(株)、スカイマーク(株)に加え、6月1日に (株)ソラシドエア(スカイネットアジア航空)、6月21日に (株)AIR DOが、全日本空輸(株)との共同運航便として新規就航したことにより4社となった。
	平成25年 3 月 9 日	メリケンパークで初めてのポップサーカス神戸公演スタート。期間中に110,599人が来場。(～5月12日)
	平成25年 4 月 3 日	神戸海洋博物館に日本初のカミナリレーダーを設置。
	平成25年 4 月18日	神戸ハーバーランドがリニューアルされ、「umie」が開業。
	平成25年 4 月19日	神戸ハーバーランドの「MOSAIC」南側に「神戸アンパンマンこどもミュージアム&モール」が開業。
	平成25年 5 月 6 日	ブライトリングエアーショー「フライトパフォーマンス」を神戸港沖で開催。ブライトリング・ジェットチーム7機によるアクロバット飛行を実施。5,032人が11隻の船に分乗して観覧。
	平成25年 5 月22日	(株)商船三井が北米西岸航路(基幹航路)コンテナ船の神戸港への新規就航。 同社が毎週運航する北米西岸とアジアを結ぶ基幹航路サービス(サービス名: PSX)を改編し、新たに神戸港への寄港を決定。第1船の「MOL MAJESTY」(78,316 G/T、6,724TEU)が初入港。神戸港の基幹航路数は合計10航路となった。
	平成25年 5 月27日	クルーズ客船「ふじ丸」(23,235 G/T)が引退前のラストクルーズに出航。
	平成25年 5 月29日	クルーズ客船「Sun Princess」(77,441 G/T)が神戸ポートターミナルに初入港。 同年は、5月29日、6月24日、7月2日の計3回入港。
	平成25年 6 月19日	クルーズ客船「ふじ丸」(23,235 G/T)の引退出航セレモニー実施。見送り船と建造した三菱重工業(株)神戸造船所からふじ色の風船400個を放空し、造船所のクレーンでUW旗を掲出。
	平成25年 6 月24日	阪神港説明会を岡山市で開催。また、7月5日に高松市で実施。8月28日東京ロイヤルパークホテルで阪神港セミナーを開催、600名が参加。
	平成25年 7 月10日	上海セミナー開催。神戸港代表団26人参加(～12日)。12月19日に「神戸港セミナー in ハノイ」を開催。(17～20日)
	平成25年 7 月11日	「須磨海水浴場・須磨海浜公園地区」で喫煙違反者から過料を徴収。(～8月31日) 海水浴期間中、須磨海水浴場と須磨海浜公園地区を「神戸市ばい捨て及び路上喫煙の防止に関する条例」に基づく「路上喫煙禁止地区」に指定し、喫煙禁止の違反者から過料1,000円の徴収を開始。
	平成25年 9 月17日	ポートアイランド2期PC-16/17バース22列対応高規格ガントリークレーンの搬入据付(～19日)。このクレーンは、22列大型コンテナ船に対応し、超大型地震(レベル2地震動)に耐える免震装置を備えている。
	平成25年10月 1 日	(株)OMこうべと海上アクセス(株)の経営統合。
	平成25年10月 1 日	4月1日に神戸港全域を船舶等の放置等禁止区域に指定、10月1日より適用を開始し、小型船舶の係留を有料許可制にするなど水面利用のルールづくりを行った。
	平成25年11月16日	平成24年3月に策定した「神戸市夜間景観形成実施計画」に基づき、神戸大橋ライトアップをリニューアル。第3回神戸マラソンの開催に合わせ、前日の11月16日に点灯を開始。
	平成25年11月21日	神戸ポートタワーが開業50周年を迎える。開業以来の総入場者数23,116,786人。
	平成25年11月26日	井本商運(株)大型内航コンテナフィーダー船「さがみ」(2,464 G/T、400TEU)が初入港。
	平成25年12月24日	神戸空港竣工(空港島全体竣工)。 平成11年6月24日に埋立免許取得。平成14年11月7日に37.9ha(1回目部分の竣工、以降、順次竣工許可手続きを進め、空港島全体約272haのうち、約242haが竣工許可済みであった)。平成18年2月16日に神戸空港開港。平成25年12月24日に残りの約30haが竣工。
	平成25年	この年、総取扱貨物量 88,353,180トン、うち輸出貨物量 21,618,186トン、輸入貨物量 27,318,349トン、コンテナ取扱量 37,892,132トン、2,553,257TEU。入港船舶数 36,338隻、うち外国航路船 7,159隻。[コンテナ取扱個数は、世界56位] クルーズ客船入港隻数 102隻。



umieがリニューアルオープン



ブライティングエアショー
市民が11隻の船に分乗して見学



「ふじ丸」引退出航セレモニー



PC-16/17
22列対応高規格ガントリークレーン



神戸空港島竣工

2014年	平成26年 2月6日	港湾法第56条の4第2項の規定に基づき神戸港放置禁止区域内における放置艇等撤去の実施（～7日）。港湾法による代執行処分を行うことは今回が初めて。
	平成26年 2月22日	航海訓練所のタービン機関の練習船三代目「大成丸」が最後の航海で、131回目の神戸寄港。（～26日）
	平成26年 3月14日	「阪神港利用促進プロジェクト活性化セミナー」を大阪市で開催。また、6月11日に福岡市で開催。
	平成26年 3月17日	神戸市新港務艇「竜王」（18 G/T）が竣工。2月26日「竜王2」（195 G/T）が引退し、3月17日に「竜王」が竣工。港内の海面管理、運搬給水、防災・水域保安対策などの業務を担う。通常時は単独で航行するが、運搬給水業務時は、給水バージ「神戸給水」を押航して清水を運搬する国内では珍しい押船・バージ方式。
	平成26年 3月19日	クルーズ客船「Queen Elizabeth」（90,901 G/T）が神戸港に初入港。その姿を一目見ようと神戸港に約5万人の見学者が訪れた。
	平成26年 4月	CKYHEアライアンスサービス開始。（COSCO、Hanjin、Yang Ming、川崎汽船からなるCKYHグリーンアライアンスにEvergreenが加入した新たなアライアンス）
	平成26年 4月29日	プリンセスクルーズの自主クルーズ第1船「Sun Princess」（77,441 G/T）が神戸ポートターミナルに入港。日本人乗客1,899人が下船し、新たに1,288人（うち日本人1,082人）が乗船。
	平成26年 7月1日	港湾運営会社への政府出資を可能とする改正港湾法が施行。
	平成26年 7月18日	神戸ポートタワーの「国登録有形文化財」への登録が決まる。7月18日の国の文化審議会文化財分科会の審議・議決を経て、12月19日に国の登録有形文化財（建造物）として登録。
	平成26年 7月27日	欧州航路に1万TEU超のコンテナ船が順次投入され神戸港に初入港。 7月27日 船名:MOL BRAVO 【113,042 G/T 10,100TEU】 10月25日 船名:MOL BRILLIANCE 【113,042 G/T 10,100TEU】 11月8日 船名:MOL BRIGHTNESS 【113,042 G/T 10,100TEU】 11月22日 船名:MOL BREEZE 【113,042 G/T 10,100TEU】 12月23日 船名:MAERSK EFFINGHAM 【141,649 G/T 13,102TEU】 12月30日 船名:MAERSK ENFIELD 【141,649 G/T 13,102TEU】
	平成26年 9月3日	新港第3突堤の「神戸三宮フェリーターミナル」が竣工。9月17日、ジャンボフェリー（株）が「神戸三宮フェリーターミナル」の供用開始。
	平成26年 9月27日	世界で1隻だけのマンションシップ「The World」（43,188 G/T）が中突堤に3回目の入港。

2014年	平成26年10月1日	神戸港及び大阪港の特定港湾運営会社（神戸港埠頭㈱と大阪港埠頭㈱）が経営統合し、「阪神国際港湾㈱」が成立。同日、神戸港埠頭㈱から外貿埠頭やフェリー埠頭の業務を移転。 ポートアイランド2期PC-16/17バースに、新たに高規格ガントリークレーン2基を設置し、22列5基の荷役体制を確保。
	平成26年10月1日	宮崎カーフェリー㈱が神戸・三宮フェリーターミナルから神戸～宮崎航路を再開。10月1日、「みやざきエクスプレス」(11,933 G/T) が初入港。翌10月2日は、「こうべエクスプレス」(11,933 G/T) が初入港。 宮崎カーフェリー㈱は阪神・淡路大震災時まで神戸（青木）～日向（細島）航路を運航していたが、16年振りに神戸港に戻ってきた。
	平成26年11月28日	「阪神国際港湾㈱」を港湾運営会社に指定。 国、港湾管理者、民間の協働体制構築により、広域集貨など全国的課題へ対応するとともに、会社の財務基盤を強化し、コスト競争力を有するターミナル運営に資する整備を促進するため、政府からの出資を受けることが可能になった。
	平成26年12月26日	阪神港の港湾運営会社である「阪神国際港湾㈱」に対して国が出資。 出資比率：国34.2%、神戸市30.8%、大阪市30.8%、㈱三井住友銀行2.7%、㈱みずほ銀行0.7%、㈱三菱東京UFJ銀行0.7%
	平成26年	この年、総取扱貨物量 92,386,563トン、うち輸出貨物量 22,606,633トン、輸入貨物量 27,686,802トン、コンテナ取扱量 39,715,416トン、2,616,537TEU。入港船舶数 35,831隻、うち外国航路船 6,965隻。[コンテナ取扱個数は、世界59位] クルーズ客船入港隻数 100隻。



Queen Elizabeth (90,901 G/T) 初入港



MOL BREEZE (113,042 G/T, 10,100TEU) 初入港



神戸三宮フェリーターミナル竣工



宮崎カーフェリー 神戸～宮崎航路再開

2015年	平成27年1月	OCEAN THREEがサービス開始。（CMA CGM、China Shipping Container Lines、United Arab Shipping Co.が結成） 2Mアライアンスがサービス開始。（マースクとMSCが結成）
	平成27年1月10日	2006年の7月13日に運航を開始した神戸～関空ペイシャトルが乗船客数300万人を達成。
	平成27年1月13日	前年度に引き続き10,000TEU超のコンテナ船が順次投入され神戸港に初入港。 1月13日「MAERSK EDMONTON」(141,716 G/T, 13,092TEU) がRC-4/5に初入港。 5月9日「MOL BEAUTY」(13,042 G/T, 10,100TEU) がPC-16/17に初入港。 11月10日「EBBA MAERSK」(170,794 G/T, 13,460TEU) がRC-4/5に初入港。
	平成27年1月18日	海外に向けて㈱日立製作所の新幹線車両の輸出積み込みを六甲アイランドRL-1で開始。2020年までに866両を輸出。

2015年	平成27年 1月23日	神戸開港150年記念事業実行委員会を設立。
	平成27年 2月16日	神戸空港が開港9周年。開港10年を記念するロゴマークを決定。民間事業者主催による開港10周年イベントとして、7月4日、5日に神戸空港島で初の全日本モトクロス選手権を開催。また、10月10日から平成28年1月18日までハッピードリームサーカスを空港島内で開催。
	平成27年 3月2日	神戸ポートターミナルに新しくバリアフリー型のボーディングブリッジを導入。
	平成27年 3月18日	クルーズ客船「Queen Elizabeth」が平成26年に続き、1,877人を乗せて神戸港に2年連続入港。550人下船。新たに神戸から780人が乗船。同船は、ワールド・クルーズの途中、悪天候で寄港地を急遽神戸港へ変更。短い準備期間での受入れを評価され、神戸開港150年の平成29年に神戸発着クルーズを実施することも発表。
	平成27年 3月19日	阪神国際港湾(株)設立記念レセプションを東京で開催。5～7月にかけて、阪神港集貨事業説明会を神戸、大阪、東京、山口、高松、広島、福岡の7か所で開催。
	平成27年 3月26日	神戸ポートターミナルがリニューアルオープン。同日ロイヤル・カリビアン・インターナショナルが運航するクルーズ客船「Mariner of the Seas」(138,279 G/T) が神戸港に初入港。
	平成27年 7月23日	第20回海の日「海でつながるプロジェクト」の一環で、川崎汽船(株)の大型自動車運搬船「HAWAIIAN HIGHWAY」(76,126 G/T、7,539台積み) が神戸ポートターミナルに初入港。船内一般公開を実施。
	平成27年 9月29日	臨海部における防災機能の強化～高潮事業の完了・巨大津波対策の着手～ ・1965年度から本格的に着手した高潮対策事業は、延長59.8kmに亘る防潮堤及び防潮鉄扉等の整備が完了し、2015年度末をもって半世紀に及ぶ事業が完了した。 ・概ね1000年に1回の頻度で発生する南海トラフ巨大地震に伴う津波について、既存の防潮堤等をねばり強い構造に補強することで被害の軽減を図る津波対策事業として、2015年度より着手。
	平成27年10月14日	六甲アイランドRC-6/7に22列対応高規格ガントリークレーンを3基設置。(～16日)
	平成27年10月15日	新港第1突堤に複合施設「ラ・スイートオーシャンズガーデン」「神戸みなと温泉 蓮」竣工。平成24年6月に事業者を公募、平成24年11月に(株)ラ・スイートに決定。平成27年10月15日に竣工し、12月17日に開業。
	平成27年10月31日	新港第1突堤と第2突堤との間で、日本で初めての「Red Bull Flugtag Kobe 2015」を開催。(～11月1日)また、ウイングスーツのRed Bull Air Force 2名が日本初飛行。2万人が参加。
	平成27年11月1日	第16回北東アジア港湾局長会議を神戸で開催。(～3日)
	平成27年11月25日	ベトナム・ハナム省において、「神戸港セミナー in ハナム」を開催。参加者約100名。
	平成27年12月11日	COSCOとChina Shipping Container Lines の2社が統合を発表。2016年2月、合併してChina COSCO Shipping となる。
	平成27年12月14日	国際コンテナ戦略港湾政策に則って神戸港の取扱増加の一環として、井本商運(株)の国内最大積載548 TEU型内航コンテナ船「なとり」(7,390 G/T) が12月14日に神戸港に初入港した。
	平成27年12月	門司・博多～神戸～東京・横浜を定曜日で運航し、週2回(月・金) 神戸港に寄港する。同船はコンテナ船としては世界で初めて空気抵抗を抑えるために球状船首ブリッジを採用するなど省エネのための最新技術を導入。
	平成27年	CMA- CGMがシンガポールのNOL (APL) の買収を決め、翌6月にグループ化。 この年、総取扱貨物量 97,001,666トン、うち輸出貨物量 23,296,621トン、輸入貨物量 27,888,423トン、コンテナ取扱量 41,622,268トン、2,706,967TEU。入港船舶数35,074隻、うち外国航路船6,903隻。[コンテナ取扱個数は、世界57位] クルーズ客船入港隻数97隻。



六甲アイランドRL-1で海外向け
新幹線車両の積み込み



59.8kmの防潮堤及び鉄扉等の完成



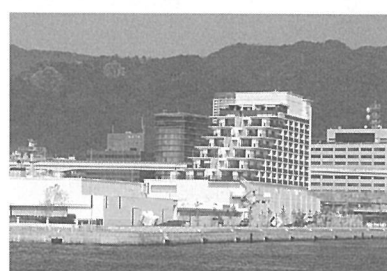
六甲アイランドRC-6/7に22列対応
高規格ガントリークレーン3基設置



EBBA MAERSK
(170,794 G/T、13,460TEU)初入港



国内最大積載548TEU型の
内航コンテナ船「なとり」初入港



新港第一突堤に「ラ・スイートオーシャンズ
ガーデン」「神戸みなと温泉 蓮」竣工

2016年	平成28年 2月16日	神戸空港開港10周年。平成18年の開港から10年の間に、累計2,500万人を超える方々が利用。「感謝の集い」には関係者ら350人が出席。
	平成28年 3月17日	神戸港へ入港した過去最大のクルーズ客船「Quantum of the Seas」(168,666 G/T) が神戸ポートターミナルに初入港。8月25日～26日にも入港。
	平成28年 4月27日	2016年度 国際コンテナ戦略港湾「阪神港」「京浜港」コンテナ貨物集貨支援事業合同説明会を東京で開催。
	平成28年 6月1日	六甲アイランドRC-4/5に、超大型コンテナ船「MSC VENICE」(176,490 G/T、16,652TEU) が初入港。タグボート4隻を使って着岸。
	平成28年 6月5日	MSCのクルーズ客船としては初めてとなる「MSC Lirica」(65,591 G/T) が神戸ポートターミナルに初入港。
	平成28年 6月15日	(一社)日本港運協会に属する、(一財)港湾労働安定協会が設置運営する港湾技能研修センターがポートアイランドに移転拡充されることになる。敷地面積は現在の約2倍の約6haで最新の機材を導入し、世界最大規模となり、2020年4月に開業予定。
	平成28年 6月26日	パナマ運河拡張部分開通。幅が49mになり、10,000TEUまで通航できる。
	平成28年 6月30日	神戸港福利厚生施設「神戸ポートオアシス」起工式。
	平成28年 7月13日	神戸-関空ベイ・シャトル就航10周年。
	平成28年 7月19日	マースクラインのSafari Service新規航路開設第1船「MAERSK ELGIN」(71,112 G/T、6,881TEU)がRC-4/5に入港。
	平成28年 8月31日	世界第7位の海運会社である(株)韓進海運(本社:ソウル市)が、8月31日にソウル中央地方裁判所に法定管理(日本の会社更生法に該当)を申請した。 神戸港では円滑な港湾物流機能を維持することを目的とした緊急対応を実施した。 (翌2月17日破産宣言)
	平成28年 9月11日	G7神戸保健大臣会合開催。(～12日) 神戸港内の航行船舶の事前登録実施。
	平成28年 9月22日	川崎重工業(株)神戸工場で液化石油ガス(LPG)運搬船「PYXIS ALFA」の命名式・進水式が行われた。同工場でのLPG船の進水は1995年1月以来21年ぶり。市民600人を含む3,800人が進水を祝った。全長約230メートル、49,530dwt。
	平成28年10月3日	神戸を舞台としたNHK連続テレビ小説「べっぴんさん」がスタート。
	平成28年10月14日	カワサキワールドがリニューアルオープン。10月15日～11月3日には、川崎重工業(株)創立120周年記念「世界にかけた誇り高き情熱」が神戸ポートターミナルで開催され、「飛燕」を展示。
	平成28年11月18日	インドネシア・ジャカルタにおいて、「神戸港セミナー in ジャカルタ」を開催。参加者約100名。

平成28年12月27日
平成28年

そごう神戸店で「神戸開港150年 写真パネル展」を開催。(～1月3日)
この年、総取扱貨物量 98,313,779トン、うち輸出貨物量 23,307,248トン、輸入貨物量 28,418,956トン、コンテナ取扱量 43,459,752トン、2,801,160TEU。入港船舶数35,189隻、うち外国航路船6,757隻。[コンテナ取扱個数は、世界55位]
クルーズ客船入港隻数104隻。



「Quantum of the Seas」(168,666 G/T)
初入港



「MSC VENICE」
(176,490 G/T、16,652TEU)初入港



21年ぶりの液化石油ガス運搬船
「PYXIS ALFA」(49,530dwt)進水式

2017年	平成29年 1 月 1 日	神戸開港150年記念事業スタート。NHKゆく年くる年で、年替わりの瞬間に神戸港から生中継。新港第2突堤から花火530発を打ち上げ。150年前に開港を祝って正午に放たれた21発の王礼砲(祝砲)も昼花火で再現。(2月18日にはNHKプラタモリで、神戸港を特集)
	平成29年 1 月25日	神戸開港150年を記念し、「日本玩具博物館」、「陳舜臣アジア文藝館」、「鈴木商店記念館」とのコラボ事業として、神戸港と神戸文化の企画展「神戸みなと時空」を開催。1年間を通じて約2万人が来場。
	平成29年 2 月13日	神戸国際港湾会議を開催。18の国・地域から28港の港湾管理者が集い開催。共同宣言である「神戸宣言」を採択し、各港間の連携や将来を担う人材育成について協力して取り組むことを宣言。今後の航路展開の積極的な推進や、海運に関する情報共有を内容としたMOU(連携協定)を11の港湾と締結。また、開催期間中は、延べ23回にわたってビジネスミーティングも開催。(～14日)
	平成29年 3 月13日	クルーズ客船「Queen Elizabeth」(90,901 G/T) 神戸港発着クルーズを実施。同船が発着クルーズを実施するのは日本初。出港時に新港第2突堤で花火350発を打ち上げ。48名の船内見学会に5,442名が応募。救急救難艇「たちばな」(46 G/T) が最後の歓迎放水を行い引退。
	平成29年 3 月20日	クルーズ客船「Queen Elizabeth」(90,901 G/T) が帰港。48名の船内見学会に4,776名が応募。150名の見送船に2,013名が応募。神戸市水上消防署の新消防艇「たかとり」(46 G/T) が新たに就役披露。
	平成29年 3 月29日	「アジア広域集貨プロジェクトチーム」設立。成長著しい東南アジア地域の貨物の集貨や、東南アジアと北米間からの貨物における神戸港でのトランシップ機能の回復等をめざす。
	平成29年 4 月	オーシャンアライアンスがサービス開始。(CMA-CGM、COSCO、OOCL、Evergreen)
	平成29年 4 月	ザ・アライアンスがサービス開始。(日本郵船㈱、川崎汽船㈱、商船三井、Hapag-Lloyd、Yang Ming)
	平成29年 4 月 5 日	開港150年を契機にメリケンパークをリニューアル。芝生広場と様々なイベントで活用できるオープンスペースの拡張や、桜並木の整備、広い屋外ステージの設置に加え、新たな飲食店の出店やフォトスポットとして「BE KOBE」モニュメントの設置、夜間景観等を整備。
	平成29年 4 月 8 日	神戸海洋博物館の入館者数が700万人を達成。
	平成29年 4 月11日	世界最高ランクのラグジュアリー客船「Europa」(35,265 G/T) が神戸港に初入港。世界唯一の分譲マンションシップ「The World」(43,188 G/T) が中突堤に4回目の入港。
	平成29年 4 月21日	神戸開港150年、神戸市シアトル市姉妹都市提携60周年、神戸港シアトル港姉妹港提携50周年となる本年、スターバックスがメリケンパークに西日本最大級の広さで、関西エリア初の公園内店舗となる神戸メリケンパーク店を出店。進出決定は平成28年5月15日。

2017年	平成29年 5月1日	「須磨海岸を守り育てる条例」を一部改正。須磨海岸の一部（海水浴場開設区域）を港湾施設（緑地及び海浜）として位置づけ。
	平成29年 5月3日	神戸開港120年を記念してメリケンパーク南東部の海底に埋設してから30年を経たタイムカプセルの引き揚げ式典を挙行。
	平成29年 5月19日	秋篠宮殿下ご臨席のもと神戸開港150年記念式典を開催。開港100年～150年期間中に功績を残された神戸開港150年 港湾功労者顕彰や「神戸港将来構想」の概要の発表などを実施。PC18をご視察。
	平成29年 5月20日	港湾関係団体を中心とする神戸開港150年音楽祭実行委員会が、メリケンパークで音楽祭を開催。2日間で市民3万人が参加。[5月20日～21日]
	平成29年 5月21日	第47回神戸まつりでは「150年のみなと神戸に会いたくて」と題し、19日に懐古行列を開催。21日には音楽祭実行委員会のメンバーが中心となった神戸開港150年パレードや神戸市婦人団体協議会が神戸開港150年記念総踊りを挙行。
	平成29年 5月24日	震災で休止した後、平成27年から再開した海岸環境整備事業により、JR須磨駅前海岸の遠浅化と砂浜の拡張、海沿いの遊歩道の再整備等が完成。5月28日には、そのお披露目と「みなとオアシス須磨」の登録式を兼ねて「須磨ビーチフェスタ2017」を開催し、約36,000人が来場。
	平成29年 5月24日	全国の港湾関係者が集まり、(公社)日本港湾協会定時総会をポートピアホテルで開催。翌25日には、みなとの博物館ネットワークフォーラム総会を神戸海洋博物館で開催。
	平成29年 6月30日	港湾労働者や市民の交流の場となる新たな福利厚生施設「神戸ポートオアシス」が第3突堤基部に開館した。ホール、会議室、喫茶、食堂を備える。完成披露式典に併せ第48回 神戸港湾勤労者表彰式を開催。7月1日から供用開始。
	平成29年 7月	概ね30年先を見据えた、神戸港が目指すべき将来像を示す「神戸港将来構想」を策定。目指すべき将来像は、「挑戦・進化を続けるみなと神戸～新たな価値創造を目指して～」。
	平成29年 7月7日	日本郵船(株)、(株)商船三井、川崎汽船(株)が、コンテナ船運航会社『オーシャン・ネットワーク・エクスプレス・ホールディングス(株)』を設立。
	平成29年 7月10日	今年最大のクルーズ客船「Norwegian Joy」(167,725 G/T)が神戸ポートターミナルに初入港。
	平成29年 7月15日	平成15年7月の第1回「海フェスタ」KOBEBE以来全国で初めての2度目の神戸港開催で第14回 海フェスタKOBEBEを開催（～8月6日）。23日間の推計総来場者数1,075,593人。開会式を神戸ポートオアシスで開催（15日）。内外の帆船等8隻を集めた「神戸帆船フェスティバル(15～17日)」を開催。13日、韓国の帆船「KOREANA」(135 G/T) 15日ロシアの練習帆船「PALLADA」(2,248 G/T) は初入港。日本で初めて(独)海技教育機構の練習船全船5隻が神戸港に集合（15日）。海の総合展を神戸ポートターミナルで開催。（～30日）川崎汽船(株)の7,500台積みの大型自動車運搬船「SIRIUS HIGHWAY」(75,044 G/T) 初入港。
	平成29年 7月18日	秋篠宮同妃両殿下が記念式典のためにご来神され、「海王丸」、海の総合展、萌黄の館、風見鶏の館をご視察。
	平成29年 7月19日	秋篠宮同妃両殿下ご臨席のもと、海フェスタ記念式典を開催。
	平成29年 7月21日	インドネシア・スラバヤにおいて、「神戸港セミナー in スラバヤ」を開催。参加者約50名。
	平成29年 7月23日	海フェスタ神戸の一環で巡視船「せつつ」(3,100 G/T)、「とさ」(1,200 G/T)、海洋気象観測船「啓風丸」(1,483 G/T)、深海調査船「よこすか」(4,439 G/T)、「しんかい6500」を新港第1突堤で一般公開。（～23日）
	平成29年 8月5日	神戸開港150年記念 第47回みなとこうべ海上花火大会を開催。過去最大となる15,000発（尺玉150発）を打ち上げ。336,230人が観覧。
	平成29年 9月12日	メリケンパーク内に同公園の賑わいづくりと利便性向上のため、日本港運(株)の元代表取締役の故安原重夫氏ご家族からガントリークレーンを模した時計塔が寄贈され設置。
	平成29年 9月16日	港都KOBEBE芸術祭を神戸港で開催。期間中113,000人が来場。（～10月15日）
	平成29年 9月22日	南極観測船「しらせ」が6年ぶりに入港。23日、24日の一般公開に7,011人が見学。
	平成29年 9月26日	神戸市と関西エアポート神戸(株)が、神戸空港特定運営事業（コンセッション）公共施設等運営権実施契約を締結。これによって、平成30年（2018年）4月1日から関西国際空港と大阪国際空港との一体運営が実質的に実現。

2017年	平成29年10月7日	神戸開港150年を記念して、30年後の2047年に引き揚げるタイムカプセルをメリケンパーク南東部の海底に埋設。
	平成29年10月7日	マルエーフェリー(株)の「琉球エクスプレス」(6,266 G/T)が旅客運航を停止。44年の歴史に幕引き。10月11日より、「琉球エクスプレス2」(10,758 G/T)がRO/ROサービスを開始。
	平成29年10月26日	新港突堤西地区(第1突堤基部)再開発事業 事業面積34,000㎡。文化・集客・業務・商業・住機能等の複合再開発を提案・実施する事業者の公募を行い、住友不動産株式会社を中心とする企業グループを優先交渉権者と決定。
	平成29年10月28日	神戸空港 搭乗者3,000万人達成。
	平成29年10月29日	神戸開港150年「こうべ食の博覧会 STYLE in KOBE」リターンズを中突堤で開催。
	平成29年10月31日	(株)神戸製鋼所灘浜工場の高炉停止。
	平成29年11月4日	メリケンパークでBMXとスケートボードの世界大会「アーク・リーグ」を開催。(～5日)
	平成29年11月17日	神戸開港150年ファイナルイベント「チームラボアイランド～学ぶ!未来の遊園地～in神戸港」を神戸ポートターミナルで開催(主催:「チームラボアイランド～学ぶ!未来の遊園地 in 神戸港」実行委員会)。神戸港の未来を担う子供たちに、最新のデジタルグラフィックアートに触れる機会をファイナルイベントとして実施。(～12月17日)期間中、51,487人が訪れた。
	平成29年11月24日	神戸港をトランシップ拠点とした「Sea&Sea トライアル」の実施。アジア広域集貨プロジェクトチームとして初トライアル。目的は、神戸港に寄港する異なる船社のスペースを組み合わせ、NVOCCが東南アジア→神戸→北米の一貫輸送サービスを提供するオペレーションの確認。
	平成29年12月1日	ポートアイランド2期「神戸アイセンター」と「神戸陽子線センター」が開業。
	平成29年12月2日	そら植物園(株)をはじめとする実行委員会が、「めざせ!世界一のクリスマスツリーPROJECT」をメリケンパークで開催。(～26日)
	平成29年12月10日	「水素スマートシティ神戸構想」に基づく水素発電の実証実験設備がポートアイランド内に完成。川崎重工業(株)と(株)大林組が建設。燃焼時に二酸化炭素が発生しない水素からできた電気を市街地に供給するのは世界初。さらに、2020年には豪州の原料を用いて水素を製造、貯蔵・輸送・利用までが一体となった液化水素サプライチェーンの構築を目指し、神戸空港島で液化水素荷役技術の開発実証運転が行われる予定。
	平成29年	平成29年(1～12月)のコンテナ総取扱個数(速報値)、過去最高。コンテナ取扱個数は外内貿全体で2,916,588TEU(前年同期比104.1%)となり、平成6年の2,915,853TEUを上回り、速報値では過去最高となった。なお、外貿コンテナ取扱個数は2,216,577TEUで阪神・淡路大震災以降最高となり、内貿コンテナ取扱個数は700,012TEUで過去最高となった。 クルーズ客船入港隻数118隻。



神戸国際港湾会議



メリケンパークリニューアル



神戸開港150年記念式典



神戸開港150年音楽祭



須磨海岸再整備事業竣工



海フェスタ神戸で海技教育機構の練習船全5隻が集合